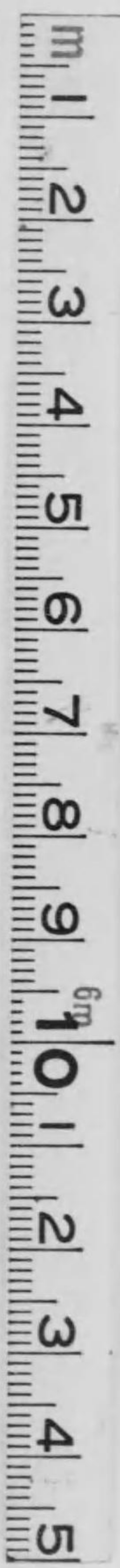


60  
466



始



日本鍼灸專門學院  
特別編纂

各府縣  
年度別 鍼灸術  
試驗  
問題 答案集

日本鍼灸專門學院出版部

60-466



灸

術

試驗  
問題

答

案

集



全國各府縣  
鍼灸術  
試驗問題答案例

目次

第一科(解剖—生理)の部問題

一、人體を構成する組織の名稱……………	一
一、骨とは如何なるものなるや……………	二
一、骨の主成分を擧げよ……………	二
一、軟骨の所在及其効用……………	二
一、靭帯とは何ぞや……………	二
一、脳頭蓋骨の數及其名稱……………	三
一、蝴蝶骨の所在及其形狀……………	三
一、頭蓋骨の縫合の種類及所在……………	三
一、脊椎骨の數及其區別……………	四
一、脊椎各種の形態の差異……………	四
一、骨盤の形狀及之を構成する諸骨の名稱……………	五
一、全身の運動器とは如何……………	五
一、咀嚼を營む筋の名稱……………	五
一、肩胛部の筋を示せ……………	六
一、背部淺層筋の名稱……………	六
一、横隔膜の位置及作用……………	六
一、下腿前側の重なる筋を示せ……………	六
一、下腿後側の筋の名稱及起始停止……………	六
一、毛細管とは如何なるものなるや……………	七
一、肺動脈について知る處を語れ……………	七
一、總頸動脈及外頸動脈の枝別……………	七
一、上肢の主なる血管の名稱及經路……………	八
一、腦の形狀及區別……………	八
一、三叉神經の分佈を示せ……………	八
一、頸部を横斷せば如何なるものを現すや……………	九
一、喉頭の構造……………	九

- 一、男女生殖器の名稱……………一〇
- 一、血液の効用を示せ……………一一
- 一、白血球の作用……………一一
- 一、小出血部の自然に止血する理由……………一一
- 一、心音及心動とは如何……………一一
- 一、淋巴とは何ぞや及其効用を問ふ……………一二
- 一、淋巴液の成分を問ふ……………一二
- 一、呼吸中樞の所在を示せ……………一二
- 一、食鹽の身體に必要な所以……………一二
- 一、身體に於ける水の効用……………一二
- 一、體温の調節作用……………一三
- 一、言語を發する理由……………一三
- 一、死體強直の起る理由……………一四
- 一、筋の感覺とは如何……………一四
- 一、代償機とは如何なる事を云ふや……………一四
- 一、皮膚の構造作用及神經終器の位置……………一五
- 一、筋質と髓質とは何れが大なるや……………一六
- 一、内臓の名稱並に其所在……………一六
- 一、耳の内の骨數及骨名……………一六
- 一、上膊筋の起止如何及其作用……………一六

- 一、肋骨の區別及起始點を問ふ……………一七
- 一、肝動脈は何れに入るや……………一七
- 一、心臟の所在並に其作用……………一七
- 一、肝臓の位置形状及大小色澤並に作用……………一七
- 一、横隔膜は如何なる者なるや及其部位……………一七
- 一、腹腔の諸臟器を詳しく擧よ……………一七
- 一、上肢に於ける主なる動脈の名稱……………一八
- 一、膝關節の構成……………一八
- 一、食管裂孔大動脈裂孔下大靜脈裂孔何れが前にして何れが後にあるや……………一八
- 一、齒牙に分佈する神經の名稱並に起始は如何……………一九
- 一、腦神經の數……………一九
- 一、腦神經の中にて知覺多く有する神經の名……………一九
- 一、胃に分佈せる神經の名稱徑路……………一九
- 一、神經末梢とは如何……………一九
- 一、三叉神經は何れより起るや……………二〇
- 一、十二對神經の内長き神經は何神經なるや……………二〇
- 一、神經とは何ぞや……………二〇
- 一、血球の種類及其作用……………二一
- 一、消化器の名稱及食物消化順序……………二一

- 一、消化液の種類及各自の消化作用……………二一
- 一、人體に於ける血液の循環作用……………二一
- 一、食物吸收の徑路を記せ……………二一
- 一、何故に人は呼吸するや……………二三
- 一、肺の呼吸は何の爲になすか……………二三
- 一、五官器とは如何……………二四
- 一、神經の作用を問ふ……………二四
- 一、腎臓の機能……………二四
- 一、脈は何によりて起るや……………二五
- 一、反射運動とは如何……………二五
- 一、唾液の性状を問ふ……………二六
- 一、交感神經の他に異なる點……………二六
- 一、動脈及靜脈血とは如何なるものか……………二七
- 一、筋運動の起る理由……………二七
- 一、安静呼吸を司る筋の名稱……………二七
- 一、全身の運動器とは如何なる物をいふか其名稱を列記せよ……………二八
- 一、胃加答兒の症狀を示せ……………二八
- 一、甲状腺とは如何并に其構造を問ふ……………二八
- 一、温の調節とは何ぞ……………二八

- 一、呼吸の必用並に小兒成人の呼吸數……………二九
- 一、聲音の發生并に(男女子供)高低の理は如何……………三〇
- 一、心臟の運動とは如何并に其神經機能……………三一
- 一、迷走神經の經過其生理はどうか……………三一
- 一、體温の起る理由……………三一
- 一、物質代謝機とは如何……………三一
- 一、胸廓を構成せる骨の名稱及び形状連接……………三三
- 一、關節の種類を問ふ……………三三
- 一、腹筋の名稱及起始停止を問ふ……………三四
- 一、脊髄神經に付て知る處を述べよ……………三四
- 一、腦神經中第十一第十二對神經の名……………三五
- 一、大人の齒數及其名稱……………三五
- 一、泌尿器の名稱……………三五
- 一、上膊筋の名稱……………三五
- 一、下頸叢より出る主要なる神經の名稱を擧げよ……………三六
- 一、外腹筋の名稱……………三六
- 一、迷走神經の起始并に分佈區域を問ふ……………三六

## 第二科(消毒)の部

- 一、皮膚の消毒法……………三八
- 一、鍼を消毒する効用及薬名並に溶解法……………三八
- 一、酒精と無水酒精との消毒上に於ける効能を記せ……………三九
- 一、施術部に於ける消毒の順序を記せ……………三九
- 一、施術上に於ける消毒の方法に就て……………三九
- 一、常に消毒薬に何を以ふるや……………三九
- 一、何故にリゾールを用ふるや……………三九
- 一、消毒法は如何……………三九

## 第三科(鍼灸)の部

- 一、取穴の方法……………四三
- 一、膀胱麻痺の鍼灸治法……………四三
- 一、疝痛の治療法……………四四
- 一、腦頭蓋正中線に於ける經穴の名稱……………四四
- 一、膝關節部に於ける七穴名を示せ……………四五
- 一、腸俞、肝俞、膽俞の部位並に主治……………四五
- 一、致陰、青靈、心俞、盲俞、解剖的部位並に神經……………四五

- 一、色は如何なる色にするや……………四〇
- 一、石炭酸の使用法……………四〇
- 一、フォルマリンの使用法を記せ……………四〇
- 一、鍼灸術者に消毒の必要ある理由……………四一
- 一、消毒薬の名稱及溶解法……………四一
- 一、鍼器の消毒法……………四一
- 一、理學的消毒法……………四一
- 一、何故に患部のみアルコールを用ふるや……………四二
- 一、凡ての消毒薬欠乏せし時は何を以て消毒するや……………四二

- 一、關係及禁鍼禁灸を記せ……………四三
- 一、乳根の經名及部位……………四三
- 一、同名異穴の穴名十個及其部位を記せ……………四六
- 一、腰椎の兩側に存する經穴及其主治……………四六
- 一、胸部正中にある穴の名稱……………四七
- 一、扁桃腺炎に對する解剖的刺點並に穴名……………四七
- 一、手の大陰肺經の名稱及其禁鍼灸穴の位置を問ふ……………四七

- 一、婦人消渴(尿道加答兒)の灸治法……………四八
- 一、子宮痙攣に對する刺鍼の部位及目的……………四八
- 一、急性下痢症及下腹痛に對する鍼灸法……………四九
- 一、脚氣の處置法……………四九
- 一、肋膜炎に刺鍼の可否如何……………四九
- 一、上膊神經痛に對する刺鍼點及其目的……………四九
- 一、筋肉中に刺鍼せば如何なる障害を起すや……………五〇
- 一、骨に鍼尖の刺的せし時は如何……………五〇
- 一、鍼治は機質に變なき神經の變常の外効なきや……………五一
- 一、内臟に對する刺鍼の部位……………五一
- 一、麻痺及痙攣に鍼の効ある理由……………五一
- 一、麻痺及知覺脱失の刺鍼法……………五一
- 一、大陽叢の部位並に鍼治上の關係……………五二
- 一、刺鍼の際注意すべき二三の事項……………五二
- 一、身體中刺鍼の効力ある部位……………五三
- 一、鍼の効用……………五三
- 一、鍼の刺方……………五三
- 一、鍼はどんな作用があるか……………五四
- 一、鍼術は如何なる疾患症候に適するか……………五四
- 一、鍼の効用……………五四

- 一、刺鍼の法とは……………五五
- 一、鍼の術式……………五五
- 一、置鍼術とは如何……………五五
- 一、鍼にして若し神經纖維を切断したる場合は如何なる現象を呈するや……………五六
- 一、鍼治に於ける制止並に興奮法とは如何に其一例を示せ……………五六
- 一、刺鍼刺戟の緩急強弱は何によりて定むるや……………五七
- 一、押手(或は壓手)に就て記せ……………五七
- 一、中樞及末梢の麻痺に對する刺鍼點……………五八
- 一、麻痺に對する鍼治の作用……………五八
- 一、小兒消化困難症に對する施鍼の部位目的……………五九
- 一、痙攣とは如何なる者か其原因症候を言へ……………五九
- 一、頭痛の灸治點……………五九
- 一、頭痛を訴ふる患者の鍼灸治の部位如何……………五九
- 一、頸部に刺鍼して聲音を停止せしむる事あり如何なる因によるや……………六〇
- 一、頸部に刺鍼を避くべき部位及理由……………六〇
- 一、齒痛に對する灸治法を記せ……………六〇
- 一、神經系病にして灸の適應症を列記せよ……………六〇

一、淋毒性單丸炎に對する灸治點及壯數……………六一  
 一、疝痛の主徴及灸治點の解剖的部位と穴名を  
 説明せよ  
 一、足の尺度法  
 一、膝關節レウマチスに對する灸穴の名稱及壯數……六二  
 一、官能的月經閉止に對する解剖的刺鍼點並に  
 穴名  
 一、小兒の夜なきに對する刺鍼の法並に其部位  
 一、腹痛に對する灸治點及其作用……………六三  
 一、座骨神經に對する刺點如何……………六四  
 一、神經痛とは如何其症候を語れ  
 一、炎症の局所に刺鍼を致すや  
 一、何故にせざるか  
 一、然らば如何なる患者に致すや  
 一、施鍼を忌避すべき部位……………六五  
 一、傳染病の種類  
 一、全身普く動靜脈の分布せるにか、はらず何  
 故頭部を避くる必要ありや  
 一、動脈に刺鍼したる場合は如何……………六五  
 一、禁灸の部位を記せ

一、八種傳染病患者と認めたる時の處置如何……………六六  
 一、灸點部に癰痕を生ずるは如何なる理由によるや  
 一、妊娠中胃痛を發したる患者の(灸治鍼治)は  
 如何なる點に施すや……………六七  
 一、誘導法とは如何  
 一、トラホームに刺鍼の効ありや……………六八  
 一、健體に於ける刺鍼の作用  
 一、齒痛の刺鍼點……………六九  
 一、夫は何神經の支別なるや  
 一、麻痺にも癱瘓にも鍼の効ある理は  
 一、喉頭筋麻痺に對する灸治の適否……………七〇  
 一、灸治の目的と施灸部位  
 一、肋膜炎の原因症候及治療……………七一  
 一、神經を過度に刺戟する時は其反應は如何……………七十二  
 一、夫を防ぐには如何なる方法をするか  
 一、急性氣管支加答兒に對する灸治の適否……………七三  
 一、灸治の目的と施灸部位  
 一、上膊に於ける神經の起始、上膊神經に對す  
 る適應症及鍼點……………七四  
 一、神經刺鍼の種類……………七五

一、癩癩に對する灸治點……………七六  
 一、慢性及急性病とは如何なるものか  
 一、下肢の按摩施術の要項  
 一、鍼治の不適應症とは如何……………七七  
 一、肋間神經痛の刺鍼點  
 一、鍼治の適應症とは如何  
 一、横隔膜痙攣の症狀及刺鍼點  
 一、灸治の痕跡を生ずる理由  
 一、鍼質は如何なるものを用ふるか  
 一、鍼灸は如何なる病に適するか  
 一、施術時の注意如何……………七八

府縣別  
年次別  
全國實地試驗問題集

目次

大阪府	明治四十年	十二月	七九
長崎縣	全	十二月	八〇
東京府	全四十二年	十二月	八〇
大阪府	全	十一月	八一
大阪府	全	二月	八一
大阪府	全	三月	八二
大阪府	全	四月	八三
大阪府	全	五月	八二
大阪府	全	六月	八三
大阪府	全	七月	八三
大阪府	全	九月	八四
大阪府	全	十月	八四
大阪府	全	五月	八五
大阪府	全	十二月	八五
東京府	全四十三年	九月	八六

全	四月	九三	東京府	全四十四年	一月	一〇二	
全	五月	九四	全	全	九月	一〇三	
全	六月	九四	全	全	十月	一〇三	
全	七月	九五	全	全	十一月	一〇四	
全	十二月	九五	大阪府	全	一月	一〇五	
大阪府	一月	九六	大阪府	全	六月	一〇五	
全	二月	九七	大阪府	全	十二月	一〇六	
全	四月	九七	京都府	全	十二月	一〇六	
全	五月	九七	京都府	全	五月	一〇七	
全	六月	九八	大阪府	全	六月	一〇七	
全	七月	九八	佐賀縣	全	十一月	一〇八	
全	九月	九八	全	全	五月	一〇八	
全	十二月	九九	熊本縣	全	十一月	一〇九	
全	六月	九九	全	全	十二月	一〇九	
京都府	六月	九九	福岡縣	全	十月	一一一	
佐賀縣	八月	一〇〇	長崎縣	全	十月	一一一	
全	十二月	一〇〇	德島縣	全	十一月	一一二	
山形縣	月不詳	一〇一	全	和歌山縣	全	一月	一一三
長崎縣	五月	一〇一	全	全	十二月	一一三	
靜岡縣	月不詳	一〇二	東京府	全四十五年	七月	一一四	



長野縣 全島縣 島根縣 岐阜縣 高知縣 福井縣 靜岡縣 愛知縣 全東京府 東京府 京都府 大阪府 大東府 全大阪府 東京府 全東京府

大正三年

九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
一五三	一五五	一五六	一五八	一五九	一五九	一六〇	一六三	一六五	一六六	一六七	一六八	一六九	一七〇	一七一	一七四
青森縣	山形縣	弘前市	秋田縣	宮城縣	岩手縣	全	新潟縣	富山縣	岡山縣	鳥取縣	廣島縣	岐阜縣	廣島縣	滋賀縣	福井縣

十一月	十二月	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
一七八	一七九	一八〇	一八〇	一八二	一八二	一八三	一八四	一八四	一八五	一八六	一八七	一八八	一九〇
愛媛縣	和歌山縣	香川縣	高知縣	福井縣	滋賀縣	廣島縣	岐阜縣	廣島縣	鳥取縣	岡山縣	富山縣	新潟縣	全

大阪府 愛知縣 奈良縣 大分縣 熊本縣 鹿兒島縣 大分縣 京都府 愛知縣 長崎縣 佐賀縣 福岡縣 大分縣 奈良縣 廣島縣 三重縣 和歌山縣 栃木縣 宮城縣

大正元年

六月	五月	四月	三月	二月	一月	十二月	十一月	十月	九月	八月	七月	六月	五月	四月	三月
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
一一五	一一六	一一七	一一八	一一九	一二〇	一二〇	一二二	一二三	一二四	一二四	一二六	一二七	一二八	一二九	一三〇
東京府	全	全	大阪府	全	宮崎縣	愛知縣	埼玉縣	長野縣	奈良縣	全	大分縣	熊本縣	小倉市	全	福岡縣

四月	三月	二月	一月	十二月	十一月	十月	九月	八月	七月	六月	五月	四月	三月	二月	一月
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
一三四	一三五	一三六	一三八	一三九	一四〇	一四一	一四一	一四三	一四四	一四四	一四六	一四七	一四七	一四八	一四九
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全



島根縣  
山梨縣  
岩手縣  
香川縣

四月……………二七九  
三月……………二七九  
五月……………二八〇  
五月……………二八〇  
五月……………二八〇

六月……………二八一  
三月……………二八二  
四月……………二八二  
四月……………二八四

目次終

全國各府縣  
鍼灸術  
試驗問題答案例



第一科(解剖—生理)の部

此に掲げた各答案例は實際各府縣に施行せられたるものに就き解答せられあるも素より試験なるものは獨り答案集にのみ信頼すべきものならず答案解答集等断片的のものにては秩序立たず前後の關係連絡がつかずて費力上大に弊害あるものなれば茲にはその類例にのみ止めれば諸君は先づ最終に添附せる年別府縣別試験問題を参照し我が鍼灸學講義録によりて修得研究せらるゝ事が肝要である

(問) 人體を構成する組織の名稱。  
(答) 人體を構成する組織を分けて上皮組織、筋組織、神經組織、骨組織、軟骨組織、

組織、色素組織の十種とす。  
(問) 骨とは如何なるものなるや。  
織結締組織、彈力組織、脂肪組織、内皮

(答) 骨は其質極めて硬固にして黄白色を帯び周圍は緻密にして内部は大小無數の腔あり之れを髓腔と云ひ其中に骨髓を藏し血管神経を通じ外面は骨膜より被はれ身體の基礎を構成し諸器を支持し或は擁護し又筋の起止地となるものなり。

(問) 骨の主成分を擧げよ。

(答) 骨の主成分を分けて有機成分及び無機成分となす有機成分則ち膠質は骨に弾力及び可燃の性を與ふるもの無機成分則ち石灰質は骨に硬固不朽及び不溶解の性を與ふるものなり而して老人の骨は硬固にして弾力乏しく破折し易く小兒の骨は

軟弱にして弾力に富み容易に挫折せざるものなり。

(問) 軟骨の所在及び其の効用。

(答) 軟骨は帶黄白色にして大に弾力に富み鼻翼、耳殻、眼瞼、喉頭、氣管、肋骨端其他總ての關節間に存在す其の効用は骨端の衝突を防ぎ且つ關節の運動を補助し或は器官を構成する等なり。

(問) 靭帯とは何ぞや。

(答) 靭帯は白色の光輝ある纖維にして常に關節の内部及び周圍に緊張し兩骨の骨端を維持し關節を保護するもの他而して自から三種の區別あり一は一骨より他骨

に跨り關節を囊狀に圍繞するもの之れを囊狀靭帯と云ひ二は囊狀靭帯の外又は内に緊張して囊狀靭帯の働きを助け關節を一層強固ならしむるもの之れを副靭帯と云ひ三は一骨の孔或は截痕に緊張するもの之れを固有靭帯と云ふ。

(問) 腦頭蓋骨の數及び其名稱。

(答) 腦頭蓋骨は八個の骨より成る則ち顱蓋骨二個、顱頂骨二個前頭骨一個、後頭骨、蝴蝶骨一個、篩骨一個是れなり。

(問) 蝴蝶骨の所在及び其形狀。

(答) 蝴蝶骨は名に示すが如く飛蝶の形狀を呈し前及び中頭蓋に跨り前頭骨及び篩

骨の後面並びに左右顱蓋骨の中間及び後頭骨の前面に位し頭蓋底の中部をなす。

(問) 頭蓋骨の縫合の種類及び所在。

(答) 頭蓋骨の縫合とは各骨の片縁互に接合するものにして即ち前頭蓋と顱頂骨との接合せる冠處縫合及兩顱骨相互の上縁の接合せる矢狀縫合及兩顱頂骨と後頭骨と相接せる三角縫合並に乳様部と後頭骨との接合せる後頭乳様縫合又乳様部と顱頂骨との接合せる顱頂乳様縫合其他顱頂骨と鱗様部の接合せる鱗様縫合等之れなり。

(問) 脊椎骨の數及び其區別。

(答) 脊椎骨は其數三十三個にして上二十四個を眞椎と云ひ下九個を假椎と云ふ更に之れを細別して上七個を頸椎と云ひ次ぎの十二個を背椎と云ひ腰部の五個を腰椎と云ひ下九個を薦骨及び尾閶骨椎と云ふ。

(問) 脊椎各種の形態の差異。

(答) 脊椎各種の形態上の差異は知文にて盡し難しと雖も簡單に之れを説明せん頸椎の體は扁平卵圓にして上面及び下面は鞍狀に彎曲し椎孔は大にして稍や三角形を呈し横突起の尖端肉叉形に分岐して又横突起乳を有す上下の關節突起短且平坦

にして其面廣く棘狀突起は尖端分岐し

短且扁平より胸椎は其の體心臟形にして上下兩縁の各側に肋骨窩を現し椎孔は小にして圓形を帯び横突起は長くして圓形尖端は膨大にして横突起窩を呈し上下關節突起は鉛直なり棘狀突起は三角形にして長く斜に下垂す又腰椎の體は最大を有し且つ扁平なる長き横突起と鉛直なる上下關節突起及び強く後方に突出せる扁平なる棘狀突起を有せり但し第一頸椎は環狀にして體を有せず其の他第二頸椎は體の上面より圓錐形にして上部に向

へる齒狀突起を有し其形自ら他椎と相異なるを見るべし。

(問) 骨盤の形狀及び之を構成する諸骨の名稱。

(答) 骨盤の形狀は漏斗狀にして軀幹の最下部にあり之れを大骨盤小骨盤に分ち左右の無名骨第五腰椎薦骨及び尾閶骨との相結合に由りて成れる一骨腔なり。

(問) 全身の運動器とは如何。

(答) 運動の要具は則ち筋にして之れに隨意筋及び不隨意筋の二種あり不隨意筋則ち滑平筋は神識に従ひ運動する能はざる内臓及び血管等に存在するものなるか隨

意筋即ち横紋筋に至つては必ずや一骨より起り他骨に停止して一個或ひは數個の關節に跨り能く神識の刺戟に由りて自働性に收縮す故に百般の働作は皆横紋筋の收縮力に由りて他働性に生ずるものなり。

(問) 咀嚼を營む筋の名稱。

(答) 頤頰筋、咬筋、及内翼狀筋は共働作用により下顎の擧上を營み且つ外翼狀筋は下顎の前進を營む二腹顎筋前腹顎舌骨筋頤舌骨筋は下顎の下降するを補助す

(問) 肩胛部の筋を示せ。

(答) 肩胛部の筋は三角筋、棘上筋、棘下

筋、小圓筋、肩胛下筋の五筋を云ふ。

(問) 背部淺層筋の名稱。

(答) 僧帽筋、淵背筋、菱形筋、後上鋸筋、後下鋸筋等なり。

(問) 横隔膜の位置及作用。

(答) 横隔膜は胸腔と腹腔との間にあり右は第四左は第三腰椎體及び胸骨の劍狀突起並に下六個の肋軟骨等の周縁より起りて中央の臍質部に停止し其作用は胸腔を擴張し吸氣を營ましめ同時に腹腔を狭め其内容を壓す。

(問) 下腿前側の重なる筋を示せ。

(答) 下腿前側の重なる筋は前脛骨筋、長

總趾伸筋、長伸趾筋等之れなり。

(問) 下腿後側の筋の名稱及び起始停止。

(答) 下腿後側には深淺二層あり淺層は腓腸筋、長足蹠筋、背魚筋、深層は膝膈筋、長總趾屈筋、後脛骨筋、長屈拇筋なり、大腿骨下端の内外髁或は腓骨上端等より起始し腓骨脛骨の下端及び跟骨に停止し或は末端腱となるものもあり。

(問) 毛細管とは如何なるものなるや。

(答) 毛細管とは動脈の末梢と靜脈の起始部と交錯して成る網の如き形をなせる細き血管を云ふ而して之は全身の組織中を纏ひて血中の營養分は其の管壁を濾過し

組織を營養し而して老敗物を攝取し靜脈に輸送するものなり但し肺毛細管は老敗物を體外に排泄し空氣成分を攝取するの差あり。

(問) 肺動脈に就きて知る處を語れ。

(答) 肺動脈は心の右室より起り上左方に向ひ大動脈弓の下際に至り左右の肺動脈に分れ進んで肺門より肺實質中に至り肺胞を纏ひて肺毛細管を作り肺靜脈に移行するものなり。

肺動脈は大循環の血液が全身を循環する内組織の老敗物質を擔ひて靜脈より心に歸りたる血液を肺に於て新鮮ならし

むべく肺毛細管に運搬する所の脈管なり。

(問) 總頸動脈及外頸動脈の枝別。

(答) 總頸動脈は右は無名動脈左は大動脈弓の凸側部より起り各内外頸動脈に分る而して外頸動脈は顔面頭蓋及び頸部に枝別を送れるものにして即ち前枝は上甲狀腺動脈舌動脈外頸動脈後枝は鈎鎖乳嘴筋動脈後頭動脈耳後動脈内枝は上行咽頭動脈終枝は淺頰顛動脈内頸動脈の九枝に分る。

(問) 上肢の重なる血管の名稱及び經路。

(答) 上肢の重なる血管は腋窩動脈上膊

動脈及び撓骨動脈、尺骨動脈、其他中靜脈、貴要靜脈、頭靜脈等にして腋窩動脈は第一肋骨より腋窩の深部を経て大胸筋附着の下部に達し、上膊動脈となりて上膊の内側より肘窩の上部に至り、二條に分岐して、撓骨及び尺骨動脈となり、撓骨動脈は膊撓骨筋の下側より、内撓骨筋と膊撓骨筋との縫間に達し、撓骨莖狀突起より、手背に至り更に手掌に循る。尺骨動脈は、廻前圓筋の下際に入り、内尺骨筋に沿ひ下つて、豆骨の内側より手掌に出づ。頭靜脈は、手背の撓側より起り、貴要靜脈は、同尺側より起りて、一は腋窩靜脈

に、一は上膊靜脈に開口し、中靜脈は手背の皮下に起りて、肘窩に至り、貴要靜脈及び頭靜脈に開口す。

(問) 腦の形狀及び區別。  
(答) 腦は頭蓋腔内の内形に等しく、即ち球形なり、之れを大別して、大腦、小腦及び下腦とし、下腦は更に延髓、ワロリ氏橋、四疊本に小腦を更に上下及び側部の三部に、大腦を大脳脚、視神經床、松葉腺、胼胝體、大脳皮質等に細別す。  
三叉神經の經過及其分佈地を問ふ。

(學院六、十)

(問) 三叉神經の分佈を示せ。

(答) 三叉神經は、腦神經第五對にして、其の初め、髓橋の兩側より、知覺及び運動の二根を以つて起り、岩様部の上縁に於て半月狀節を形成し、後分れて三枝となり、第一枝は、眼神經にして、前頭部、上眼窩部、鼻根、淚線等に枝別を與へ、第二枝即ち上顎枝は、下眼窩縁、口蓋の粘膜及び鼻根上唇の外皮及び上齒に分佈し、第三枝即ち下顎枝は、下齒下唇舌及嚼咀筋に分佈す。

(問) 頸部を横斷せば如何なる者を現すや。  
(答) 喉頭、食管、甲狀腺、頸椎、脊髓、總頸動脈、椎骨動脈、内頸靜脈、外頸靜脈、筋及び交感、迷走、副の三神經等

(問) 喉頭の構造。  
(答) 喉頭は九個の軟骨よりなる、即ち指輪の如き環狀軟骨は最も下部に地平に位置し、其の上に甲狀軟骨あり、其の後に二個の破裂軟骨並び立てり、喉頭の上には會厭軟骨なり、喉頭の上端に附着し、喉頭の上口を閉鎖する働あり、其他二個の小角軟骨二個の楔狀軟骨等ありて、各々韌帶に由り联接せらる、又喉頭の外面は筋を以て被はれ、内面は粘膜を以て被はれ、此粘膜の皺壁と倣すべき物あり、則ち聲帶にして、常に呼吸に由りて振動し、音聲を發するものなり。

なり。

(問) 男女生殖器の名稱。

(答) 生殖器とは種族蕃殖の器にして男女各別あり而して之を蕃殖器と交接器との二種に分ち男子蕃殖器は即ち睪丸副睪丸輸精管、精囊及び射精管にして女子は卵巢輸卵管及び子宮之れなり又交接器は男子は攝護腺コーベル氏腺及び陰莖として女子は腔、陰唇、陰核、前庭、及びバルトリン氏腺之なり而して男子の射精管は一名泌尿生殖道とも云ふ。

(問) 血液の効用を示せ。

(答) 血液は組織中の不用物を外界に排泄し又外界より攝取したる營養物を組織に

質を産成する化學的作用を有す。

(問) 小出血部の自然に止血する理由を示せ。

(答) 小出血部の自然に止血する理由は一は脈管の斷端收縮するに依り一は血漿中の纖維素折出して茲に生理的血液凝固を營み以て創口を栓塞するが故に止血するものにして此の作用は生活體に最も必要なる條件なりとす。

(問) 心音及び心動とは如何。

(答) 今耳を胸壁に當てるか聽疹器にて聞く時は刻期的音調が開ゆ之れを心音と云ふ而して心音には第一音と第二音の差別

與へ以て物質の交換を司り身體を營養

するものにして其の性ラクムス試験紙に對して弱アルカリ性を呈し水より少しく重く不透明且つ一種の臭氣を帶ぶ其營養物を含有するものは鮮紅色にして動脈血と之ひ不用物を含有するものは暗赤色にして靜脈血と云ふ而して常に三十八度の温を保つものなり。

(問) 白血球の作用。

(答) 白血球は運動性を有す之れをアメーバ様運動と云ふ之れに由り血管外に遊走し或は自體中に細菌並に公微の顆粒を吸收する等器械的の作用を有し又免疫物

あり第一音は室の收縮時に發し其性稍低觸にして長し第二音は第一音に續發し其の性清明にして短かし心動は心尖の提舉せらるゝが故に起る者にして即ち左第五肋間の乳線の稍や内方に於て感觸すべく且つ目撃すべき跳動を心動と名く。

(問) 淋巴とは何ぞや及び其の効用を問ふ

(答) 淋巴は組織の不要終産物の殘餘と一定の組織分解物より形成せられ所謂淋巴液となりて組織間より漸々集合して淋巴系統を作り更に數多相集りて淋巴總管となり遂ひに靜脈に開口す而して諸々にある淋巴腺に由りて有害物を排除せらる



ものなり。

(問) 淋巴液の成分を問ふ。

(答) 淋巴液は血液と同じく漿液と細胞とよりなる所の稍々白濁せる液にして鹹味を帯び弱亞爾加里性にして一、〇四の比重を有す而して細胞を淋巴球と名づけ白血球に甚だ類し漿液中に無數に含有せらる漿液は即ち血清に類し蛋白質脂肪、鹽類を含み殊に炭酸瓦斯に富む。

(問) 呼吸中樞の所在を示せ。

(答) 呼吸の中樞は腦髓と脊髓との中間に在る則ち延髓菱形窩の後部にして正中線の兩側に存在す此の部を名づけて生活點

順序亦同じ。

(問) 筋の感覺とは如何。

(答) 筋肉には運動及び知覺の二神經來りて常に外來の刺戟即ち叩打、壓迫、摩擦等を感覺し其の刺戟に由り起る筋の動作即ち筋の短縮を營むものなり之れを筋の感覺と云ひ而して此の状態を筋の興奮と名づけ此の刺戟に合ひて短縮するの性を筋の興奮性と云ふ。

(問) 代償機とは如何なる事を云ふや。

(答) 生理的にもあれ病的にもあれ若し身體一部の器間乃至組織に機能の變調を來す時は必ず之れに關係ある器間或は組

と云ふ。

(問) 食鹽の身體に必要なる所以。

(答) 食鹽は身體諸組織を形成するに必要缺くべからざるものにして吾人類は主として植物性食品を食するが故に其の加里成分は絶へず組織中の食鹽と化合し排泄せらるゝなり故に之れが保給せざる時は組織中の食鹽量の不足を來たし遂に分量的飢餓を起すべし。

(問) 身體に於ける水の効用。

(答) 身體組織中實に百分の五十八、五は水分を含有するものにして即ち水は身體各組織を構成するに缺くべからざるものに

織力種々なる變化をなし以て機能の變調を調節する働きを有せり之れを代償機と名づく假令は勞働者の心臓は靜居者の心臓より大なるは勞働に際し全身血行を亢進せしめざる可らず從て心臓は安靜時よりも強く收縮運動を營まざる可らず茲に於て心臓纖維は増殖肥大し以て其の收縮力を強くせしむ之れ生理的に於ける心臓の代償機の例なり又病的に於ても屢々見る所にして心臓辨膜病の際に心筋肥大を來すが如く又其の一侧の腎臟機能不全のため他側の腎臟が増殖肥大するが如き之れ皆病的代償機の一例なり。

して諸物質を溶解し且つ諸種の物質を液状體となし新陳代謝に由て尿尿及肺皮膚等より間斷なく排泄せらるるものなり。

(問) 體温の調節作用。

(答) 吾人の體温は絶へず形成さるる傍ら又絶へず放散せらるるに而も能く常に同一の度を保続するは畢竟體中の一靈妙なる働きに由り一定度の變化は能く之れを調節することを得るは神經中樞の働きに基くと雖も今日尙其確實なる説明は不明なり。

(問) 言語を發する理由。

(答) 今呼吸の際空氣が喉頭を通過する時

喉頭内の聲帯を振動せしめて一つの音響を起し更らに咽頭腔、口腔、鼻腔等に達するに及び其の部の共鳴を來し前者と相合して初めて言語を成形するものなり。

(問) 死體強直の起る理由。

(答) 筋肉死亡する時は收縮硬固となり特異の狀況を呈す之れを死體強直と云ふ而して之を起す原因は筋肉中の固有の蛋白質則ち『ミオジン』の凝固を起すに由るものにして其速かなるは、死後十分遅きも七時に發し二日乃至六日にして消退す而して諸筋同時に發せずして頭部頸部に始まり軀幹之に次ぎ四肢筋最も遅く其消退の

(問) 皮膚の構造、作用及び神經終器の位置。

(答) 皮膚の構造は表皮、真皮及び皮下結締織の三層より成り、更に表皮は角層と粘液層(マルビキ氏層)に分れ角層は透明扁平の細胞より成るものにして粘液層は楕圓核を有する圓柱狀細胞より成り真皮の乳頭を覆ひ且つ乳頭間を充填するものにして兩層共に血管神經を具有せず又真皮は弾力及び滑平筋の兩纖維を混じたる結締組織纖維より成るものにして網狀と乳頭の二層に分れ乳頭層には無數の乳頭を具有し其乳頭中に血管若くは神經

の末端終止するものにして甲を營養乳頭と云ひ乙を觸覺乳頭と云ふ、而し皮下結締織は僅かに彈力纖維を混へたる纖維樣結締組織より成り質中脂肪に富饒するものなり。

皮膚は分泌、吸收、及び身體保護の三作用を營む即ち甲は皮膚呼吸を營みて水蒸氣を蒸發し又は皮膚及び汗を分泌し乙は皮膚面より藥物又は瓦斯體を吸收するものにして丙は皮膚に由て體温放出及び外來の器械的衝突を防ぎ且つ液質の漏出を防ぐものなり。

又神經終器は觸覺乳頭中に位置するもの

とす。

(問) 筋質と腱質と何れが大なるや。

(答) 筋質なり。

(問) 内臓の名稱並に其所在。

(答) 胸腹に存在せる内臓とは心臓、肺臓、氣管、食管、肝臓、脾臓、胃、脾、腎臓、輸尿管、膀胱及び生殖器とす而して其位置の大略を述心臓の部位は胸腔内左右兩肺の間にあり心臓に由て被覆せられ上は左右第三肋軟骨の間より下は左の第五第六肋軟骨の間に斜に位す。

(問) 耳の内の骨數及骨名。

(答) 三個にして槌骨站骨馬鐙骨之れなり

り肝實質に入りて肝動脈となるものなり

(問) 心臓の所在並に其作用。

(答) 心臓の部位は胸腔にして左右兩肺の間に在り心臓に由て被覆せらる(形狀及び大き等は缺く)其作用は即ち心臓筋内の自働中樞と迷走神經及交感神經との調節作用に依る外向筋の運動と胞廓の吸引作用とに依り心臓を働かせしめ其の房と室と交番縮張して以て血液の出入を營んで居る。

(問) 肝臓の位置形狀及大小色澤並びに作用。

(答) 横隔膜の直下にして右季肋部にあり

(問) 上膊筋の起止如何及其作用。

(答) 上膊筋は鎖骨の上椽及肩峯突起より起りて撓骨尺骨の上端及び上膊骨後面の粗嚙部に停止し作用は上膊を屈伸す。

(問) 肋骨の區別及び起始點を問ふ。

(答) 肋骨は左右各々十二個にして上七個を真肋骨と云ひ下五個を假肋骨と云ふ、各後端は脊柱に起り前は肋軟骨を以て胸骨に連る但し假肋は間接に肋軟骨を以て之れに連り下二個は特に遊離す之れを浮肋骨と云ふ。

(問) 肝動脈は何れに入るや。

(答) 肝動脈は内臟動脈軸より別れ肝門よ

大きさは大凡龜の大なる甲に等しく紅褐色なり作用は直接に營まざるが間接に消化を營みグリコーゲンを形成し腸内の腐敗を防ぐ等の働あるものなり。

(問) 横隔膜は如何なる者なるや及其部位を問。

(答) 横隔膜は筋質にして腹腔と胸腔の間にあり腰椎肋骨及胸骨より起り中央の腱質部に停止す、常に呼吸に由り上下に運動するものなり。

(問) 腹腔の諸臓器を詳しく擧よ。

(答) 横隔膜の直下右季肋部に肝臓左季肋部に胃の外側に脾臓胃の後下部第一腰椎

に對し横經に隣あり腎臟は後腹壁第一第二腰椎の前兩側に位し膀胱は小骨盤内にて腸は全腹腔内に縱横に位す其他生殖器等なり。

(問) 上肢に於ける主なる動脈の名稱。

(答) 腋窩動脈 上膊動脈 尺骨動脈 橈骨脈なり。

(問) 膝關節の構成。

(答) 骨筋血管神經靭帶及び軟骨より成る骨は大腿骨下端及び脛骨上端の内外關節體と關節し前部は膝蓋骨あり互に軟骨を以て連り關節の内外部には囊狀靭帶副靭帶あり囊狀靭帶の内面には滑液膜あり

て常に滑液を分泌して關節腔内を滑ならしむ筋は二頭股筋半腱様筋腓腸筋等に於て血管は膝關節動脈 膝關節靜脈 膝關節靜脈神經は輕骨神經腓骨神經なり。

(問) 食管裂孔大動脈裂孔下大靜脈孔何れが前にして何れが後にあるや。

(答) 最も前方に下大靜脈孔ありて中間に食管裂孔後方に大動脈裂孔あり。

(問) 齒牙に分布する神經の名稱並に起始は如何。

(答) 齒牙に分布する神經は三叉神經第二枝及第三枝なり第二枝は後上齒槽神經及前上齒槽神經となり上齒に分布し第三枝

(問) 胃には交感神經及迷走神經分布す前者は交感神經の第六乃至第十一胸神經節より出づる大及小内臟神經と其他三四の枝と共に腹腔中に於て大小内臟動脈軸叢を形成し更に分れて胃に來るものとその後者は延體の上外側より起り頭蓋を出で頸靜脈孔に至り而して頸部に於ては總頸動脈の後方を下走し胸部にありては食管に沿ふて食道裂孔を通じて胃に分布す

(問) 神經末梢とは如何。

(答) 筋肉及皮膚粘膜に分布する部位を謂ふ。

(問) 三叉神經は何れより起るや。

(答) 第一對の嗅神經嗅覺を司り第二對の視神經視覺を司り第五對の三叉神經の第一枝第二枝及び第八對の聽神經等であり

(問) 腦神經の數。

(答) 十二對であります。

(問) 腦神經の内にて知覺を有する神經の名稱。

(答) 第一對の嗅神經嗅覺を司り第二對の視神經視覺を司り第五對の三叉神經の第一枝第二枝及び第八對の聽神經等であります。

(問) 胃に分布せる神經の名稱徑路。

(答) 始ははわる氏橋の側部に起り大小に根より成る僅に前外方に走り岩様部の前面に於て半月状の節をなし是から三枝に分れます。

(問) 十二對神經の内長き神經は何神經なるや。

(答) 迷走神經でありまして迷走神經は菱形窩底の灰白翼より發しまして腦神經中最も許受の官能を掌るものであります。

(問) 神經とは何ぞや。

(答) 神經は白色の光輝ある纖維にして腦及背髓中樞より出でて普く樹枝狀に分岐し身體至らざる處なし。

(問) 血球の種類及其作用。

(答) 血液中の十分の九は血球にして之に赤血球及び白血球の二種あり。

一、赤血球中には「ヘモグロビン」なるものありて此の「ヘモグロビン」は生活上緊要なるものにして即ち外呼吸に依て吸入されたる大氣に會する時は直に酸素と化學的抱合をなして酸化「ヘモグロビン」となり心臓の動作に由て全身に循環する途中全身組織に之を給與し以て組織の營養及體温を形成せしめ而して酸素を亡失せば「還元モグロビン」となりて炭酸を體外に排泄せしむる作用あり。

二、白血球は運動性を有す之を「アメーバ」様運動と云ふ之れに由て血管外に遊走し或は自體中に細菌並に么微の顆粒を吸收する等器械的作用を有し又免疫物質を産成する。

(問) 消化器の名稱及び食物消化の順序。

(答) 消化器の名稱は口腔、食道、胃、腸、脾臟及び肝臟にして食物消化の順序は左の如し。

先づ攝取したる食物は器械的作用と相俟つて化學的作用に由り第一に唾液に由て澱粉を「デキストリン」と糖とに分解せられ、次に胃液に由り蛋白質を「ペプト

「ネ」とされて腸に移り茲に於ては腸液に由て澱粉を糖化する、同時に脂肪を分解せられて蛋白質を「ペプトネ」となし乳汁を凝固さるゝのみならず胆汁に由りても又中性脂肪を乳化し且つ僅かに澱粉及び「グリコーゲン」を糖化され、尚又腸液に由りても「マルターゼ」を葡萄糖に化し纖維素及び蛋白質を「ペプトネ」に變せられ且つ脂肪の一部を乳化され、斯くの如くして消化を終るものなり。

(問) 消化液の種類及び各自の消化作用を記せ。

(答) 消化液とは消化器管内に於て分泌せ

らるゝ唾液胃液腸液胆汁及び腸液を云ふ  
即ち唾液は口腔に於て粉碎食物を軟塊と  
し其含有せる唾液素により澱粉をデキス  
トリン及び糖質に化し胃液は胃中に於て  
蛋白質を溶解性のペプトーネに變化し腓  
液は多大の消化作用を有す。

(問) 人體に於て血液の循環作用。

(答) 血液を循環せしむる本源は心臓にし  
て始め營養物を含有せる動脈血が心臓の  
左室より大動脈管に出で大れより樹枝  
の如く漸々分岐して普く全身に分佈し遂  
に毛細管となる即ち此の毛細管に於て其  
含む所の營養物を組織に與へ又組織中よ

り老廢物を攝取し爰に於て靜脈血とな

り小靜脈より漸々大靜脈となり遂に  
心の右房に歸り以て右房より右室に入り  
半月瓣を経て肺動脈より肺に達して更に  
毛細管となり此所にて又呼吸に依りて肺  
胞に吸入されたる酸素と此の毛細管内の  
炭酸と交換され新鮮なる動脈血に變化し  
て肺を出で肺靜脈を通りて左房に入り  
再び左室にかへり來る斯の如く循環し  
て以て其作用を營む。

(問) 食物吸收の経路を記せ。

(答) 食物吸收とは外界より攝取したる養  
物を口腔及胃腸に於て理化學的の二作用

により吸收に便ならしめ一は胃壁及腸  
壁に開口せる乳糜管に吸收し胸管を経て  
下大靜脈に開口し一は血管に吸收せら  
れ上及下腸間膜靜脈より門靜脈を  
經て肝門に入り肝靜脈となりて下大靜  
脈に開口す。

(問) 何に故に人は呼吸するや。

(答) 呼吸は吾人の生命保續上缺くべから  
ざる者にして其呼吸に由て血中の瓦斯と  
大氣中の酸素及び組織中の瓦斯と互に交  
換して人間の生活に必要な新陳代謝を  
營む爲めである。  
而して此の呼吸を内呼吸及外呼吸に區別

(問) 肺の呼吸は何の爲めになすか。

(答) 生命を保つため絶へず不随意に呼吸  
運動を營みまして此呼吸に由りて血中の  
瓦斯と大氣中の酸素とを互に交換して生  
活に必要な新陳代謝をなすために營む  
ものです。

(答) 五官器とは知覺神經の特異末器の終止する所にして、外界の諸現象を精神に奏達し以て五官的認知の媒介を爲すの器官なり。之に視器(眼)聽器(耳)嗅器(鼻)味器舌及び觸器(皮膚)の五種を區別し、就中視器は其の適應刺戟たる光線が光エーテルの媒介に依りて視神經を刺戟し以て諸物體を明視するの作用をなし、聽器は其の適應刺戟たる空氣の振動に由り諸種の音調を聴取するの作用を有し、嗅器は其の適應刺戟たる瓦斯状香臭物の刺戟に由りて其の臭器を感知し、又味器は其の適應刺戟たる流動性或は溶解性物質の

刺戟に由り其の味を覺知するものにして觸器は冷く皮膚面に存在するを以て諸種の器械的其の他刺戟の種類に應じて觸覺、温覺、痛覺及び部位覺等の作用を營むものなり。

(答) 神經の用には二種あり一は全身の知覺を主どり一は筋肉の運動を主とする五管器は其種類により光覺聽覺嗅覺味覺觸覺等特殊の機能を營み居るものなり。

(問) 腎臟の機能。  
(答) 腎臟は尿を分泌するところの器にして其營位は堅實質中に於て血液成分の濾過作用並に分泌細胞特有の機能により行

はるゝものなり即ち體內の不用物質を血中より體外に排去すべく數多の細尿管より漸々集合し尿は逐次輸尿管に送らるゝものとす。

(問) 脈は何に由りて起るや。

(答) 脈は心室の收縮して一頓に多量の血液を動脈管内に注射する時液體は壓縮すべからざるに由り自ら血管壁を擴張して脈を起す者也。

(問) 反射運動とは如何。

(答) 反射運動とは求心性(知覺)神經の興奮に由りて發起する處の運動にして此運動を發するには求心性神經先づ刺戟を受け

て之を反射中樞に奏し遂に中樞に於て此刺戟を遠心性神經に傳へざる可からず故に求心性纖維、傳搬中樞及遠心性纖維の三者完備せざれば反射運動を營む事能はざるものなり而して反射運動には單一即ち局部反射運動、蔓延性不整反射運動即ち反射痙攣及び蔓延性整齊反射運動の別あり。

(問) 唾液の性状を問ふ。

(答) 唾液とは耳下腺顎下腺舌下腺等の諸唾液腺より口内に分泌する所の温和液にして無色にて稍少しく溷濁せる粘稠液にて泡沫を含み且つ縷を牽くの性あり常に

弱アルカリ性の反應を呈しその分泌總量は平均二十四時間中に一千乃至二千瓦を排泄す而してその成分は水九十九分に對し僅かに一分の鹽類瓦斯及有機物を含む鹽類は硫酸化カリウム瓦斯は主に炭酸瓦斯を含み有機物は粘液素唾液素蛋白質なり而して副成分として尚口腔上皮の細胞唾液球等あり其消化作用は唾液素により澱粉をデキストリン及糖に變化せしむる働き及口内を濕潤し食物嚥下を容易ならしむる等なり。

(問) 交感神經の他に異なる點。  
(答) 交感神經は植物性管内にありて脊

(答) 動脈血は心臟收縮の際左室を出て樹枝の如き動脈管を通り新鮮紅色なるものにして經織に營養を與へるものにして靜脈血は毛細管より起り組織中より老敗物を攝取し暗赤色となり靜脈管を経て心の右房に歸へるものであります。

(問) 筋運動の起る理由。  
(答) 筋運動を起すは機械的化學的温熱的電氣的及び生理的とす機械的刺戟とは元來異物の筋肉を刺戟する者にして按摩術に依り他動的に運動せしむるが如し化學的刺戟とは藥品等に依り筋の化學的抱合を變化せしむるが如く温熱的刺戟とは高度

柱の兩側に並列し多數の神經節と之れより出づる神經纖維とよりなる而して脊髓神經と連接す其機能は獨立的に不隨意運動を營む者にして主に内臟及び血管に分布す(問) 動脈と靜脈の區別如何(答) 余動脈は心の左室より起り全身の組織及び器官に血液を輸送する處の血管にして靜脈管は身體の諸器官及組織より心の右房に血液を環流せしむる血管なり而して動脈血は酸素に富み靜脈血は炭酸に富むものなり。

(問) 動脈及び靜脈血とは如何なるものなるや。

の温熱を與ふるが如く電氣的刺戟とは電流を通ずるが如く生理的刺戟とは隨意亦は不隨意に運動中樞を刺戟して亢奮し運動を起すが如し。

(問) 安靜呼吸を主する筋の名稱。  
(答) 安靜呼吸の際收縮する所の筋は外肋間筋肋骨舉筋及び横隔膜(平にして胸廓を下方に擴大せしむ)安靜呼吸には胸廓の重量及び肺臟肋軟骨腹筋等の彈力を以て胸廓を狹縮するに足れり。  
(問) 全身の運動器とは如何なる者を云ふや其名稱を列舉せよ  
(答) 筋は運動の要具にして伸縮すべき性



を有す而して之れに隨意筋及不隨意筋の二種あり隨意筋は意識に従ひ自由に伸縮し之れに反し不隨意筋は意識に従はざる者にして多くは血管及内臓等に在り。

(問) 甲状腺とは如何并に其造構を問ふ。

(答) 甲状腺は脾臓と同じく排泄管を有せず血管腺にして氣管の前上部にあり其形ち馬蹄鐵狀にして長圓狀の兩側葉及び狭き中葉より成り而して中葉は兩端に依て側葉と連結す。構造は結蹄織膜腺胞より成り其表面は固

有膜を被はれ且つ腺質内に入り其中隔を

造り大小の數葉を形成するものなり。

本腺は生活上樞要の臓器にして生活機轉進行上に於て極めて必要なる或る物質を形成し血中に灌漑し以て身體發育の平均を保持せるが故に若し其形成物質の量過不給ある場合甲状腺腺割出せば重篤なる神経系統或は代謝機係に於ける障害を來し甚しきは爲に死亡することあり然れども造成物質の本性は尙不明なり。

(問) 温の調節とは何ぞ。

(答) 人類及び爾他の同温動物の體温は間斷なく發生さるゝ傍ら又間斷なく放散せ

られて諸般の狀態に關せず能く體温を常に同一の度に保続するは畢竟體内に一種靈妙なる機能ありて一程度の變化は能く之れを調節するに由るものにして此機能を温の調節機能と云ふ而して此機能は左の二種に區別して説明するを得べし。

一、温發生の調節機能とは、張力を温の活力に變換する分子的分解の多少を主宰する機能にして、一例せば皮膚に寒冷を受くれば不隨意の筋運動(惡寒、戰慄)と隨意の筋運動とを起して共に温を發生せしむるが如き是なり。

二、温放散の調節機能とは、温發生の多

少若くば外來作用の強弱に關する身體よりの温放散を主宰する機能にして、一例せば外圍の温度與進すれば皮膚の血管は擴張し皮膚は潮紅して柔軟となり表皮濕潤して表面に發汗し以て温放散を増加するが如き是なり。

(問) 呼吸の必要並小兒成人の呼吸數。

(答) 呼吸は外及内呼吸との別ありて内呼吸は大循環系毛細管の血液中の酸素を組織に給與し組織の不要産物を毛細管より靜脈に送り交換を營み外呼吸は皮膚及肺呼吸の別あれども人身に於ては皮膚呼吸は僅少なり主として肺に於て即ち

肺の毛細管血液と吸氣に由て來れる肺胞の大氣とに由て瓦斯交換を營まれ所謂吸酸除炭に由り血液を新鮮ならしめん爲めにして人身生命保續上缺くべからざる所の新陳代謝機能にして常に不絶不隨意に營まれ居るものなり、小兒の呼吸数は通常大凡一分時間に四十回にも達するものなり成人は精神感動及び運動又は老人等に由り異なれ共通常平均一分時間十八回を常とす。

(問) 聲音の發生并に(男女子供)其高低の理は如何。

(答) 聲音の呼出氣流の喉頭を通過する際

に喉頭内に於ける眞聲帯を整然振動せしめ茲に一種の音響を形成す此音響の咽頭腔口腔鼻腔に達するや其部の供鳴を生ず之を聲音と稱へ此の供鳴と聲帯に於て生じたる音響と相合して人意の理解に應用せらるゝときは即ち言語なり。

聲音の高低は聲帯の振動の強弱に關するものにして其振動甚しき丈け音聲も益々高くなる可し又聲帯の長短に關するは男子は聲帯長く且厚く緊張度又緩なるが故に低音にして女子は聲帯短く且薄く緊張度甚しき故高音を發するものなり小供は女子と同一のものなり此作用を

司どる神経は上及び下喉頭神経なり。

(問) 心臟の運動とは如何并に其神経機能を問ふ。

(答) 心臟の運動とは心筋の一弛一縮交互に規則正しく相交換するを云ふ即ち房收縮室收縮及休憩の三部に別つ休憩時に於ては房室弛緩し房收縮時には室休憩し室收縮時には房弛緩す蓋し休憩とは弛緩即ち心擴張時を云ふ但し右房左房或は右室左室は同作用を營むものとす尙房室交番收縮し多少其位置を變更し心尖の前方に提舉せらるゝ爲に左第五肋間の乳腺部稍内方に於て感觸し又目撃すべき跳

動を心尖搏動と云ひ心運動の作用により脈膊を起し診斷の一助となるものなり。神經機能は自働中樞と交感神経より來る上中下の神経節より來る心臟枝迷走神経の心臟叢分佈し交感神経は鼓舞作用を司り迷走神経は制止作用を司るものなり。

(問) 迷走神経の經過其生理はどうか。

(答) 經過は頗る複雑で副神経と共に神経脈口の前側を経て上迷走神経節下迷走神経節を作り其主幹は頸部及び胸部を下行して胃に分散す而して其支別は種々なる方法を取り呼吸器喉環器及び咽頭喉頭の諸筋に分布する者です生理的作用は運動

及び知覺を主ります又諸腺の分泌をも  
なします而して順環器に分布する者は心  
臓の制止神經及び知覺神覺反射作用を主  
どり呼吸に分布するものは喉頭諸筋及氣  
管筋の運動神經喉頭氣管及び肺の知覺を  
主どり腹内臓に分布する者は咽頭及び胃  
の知覺を主どる者です。

(問) 體温の起る理由。

(答) 生活中の人體は常に温暖なるものな  
り之れを體温と云ふ。

體温の起る理由は體中に行はるゝ化學的  
作用によるものにして體中の可燃成分即  
ち含水炭素蛋白質脂肪が氣中より吸入せ

る酸素に依て不斷燃焼し以て温を發する  
ものにして即ち温は主に酸化に基く故に

酸化の作用盛んなる部即ち運動せる筋は  
温も亦高し然るに全身の温度の殆んど平  
均せるは全く血液運行の結果之れを平等  
に瀰蔓せしむるに依る。

(問) 物質代謝機とは如何。

(答) 機體の生活現象を營むには常に  
適當なる物質を外界より取り之れを固有  
の實質に變化し又他の物質として排出す  
るものなり。

かくの如く異物を自己の體質に變化する  
作用を同化機と云ひ又物質の攝取同化、

排泄の作用を總稱して物質代謝機と云ふ  
なり。

(問) 胸廓を構成せる骨の名稱及び形狀  
連接。

(答) 全背椎及び胸骨肋骨相互に連接結合  
し以て胸廓を構成す而して背椎は軀幹  
後方の中央に位し其數十二個重疊し上は  
第七頸椎下は第一腰椎左右は肋骨と連接  
す又七突起を有せり胸廓は胸廓の前柱  
をなし形は扇平長方形にして手柄と劍身  
劍尖の三部に分ち其接合は鎖骨及び七個  
の肋軟骨とす肋骨は胸廓の側壁をなし  
形は扇平の軟骨にして弓形に彎曲せり其

(問) 關節の種類を問ふ。

(答) 關節を分つて可動關節と不動關節の  
二種とし可動關節は全動關節蝶番關節  
鞍狀關節顆狀關節及び業合關節に六  
分し不動關節も縫合及び軟骨接合に二分  
す。

(問) 腹筋の名稱及起始停止を問ふ。

(答) 腹筋は腹腔の前部と側壁とに縱横斜  
に緊張せる所の肉壁を云ふ而して之れを

區別して縦横の二種とす。

一、縦筋に二筋あり。

直腹筋起始は第五乃至第七肋軟骨の前面にして停止は白條に接し耻骨結節及び耻骨軟骨接合なり。

三稜筋起始は前筋の前面にありて耻骨上縁なり停止は白條の下部なり。

二、横筋に三筋あり。

外斜腹筋起始は下七個の肋骨にして停止は白條耻骨結節及腸骨前上棘なり。

内斜腹筋起始はポーバルト氏靱帯の後半部及び腸骨櫛の前部にして停止は下三四

肋骨と白條なり。

部の外皮に分布す。

今脊髄神経を其部位により大別すれば

頸椎神對八對 背椎神對十二對 腰椎神對五對 薦骨神對五對 尾閥骨神對一對となす。

一對となす。

(問) 腦神経中第十一第十二對神経の名。

(答) 第十一對は副神経と云ふて僧帽筋に分布して居ります第十二對は舌下神経と云ふて舌筋及び舌骨下部の諸筋に分布して居ります。

(問) 大人の齒數及其名稱。

(答) 總數三十二枚あり是を左の四種に區別す門齒上下各四枚、犬齒上下各二枚、

横腹筋起始は腰背筋膜腸骨櫛下六個の肋軟骨にして停止は白條なり。

(問) 脊髄神経に付て知る所を述べよ。

(答) 脊髄神経は其數三十一對を有し前後の二根にて脊髄の前側及後側溝より起り前根は運動後根は知覺を司とり椎間孔に入り少しく膨大して脊髄神経節を成し茲にて前根はこれに融合し椎間孔を出づれば混合性となり更に分れて前枝後枝となる。

前枝は軀幹の前側壁四肢横隔膜等に分布し又交感神経と交通するものあり。

後枝は長短背筋并に背部の外皮頭部項

小白齒上下各四枚、大白齒上下各六枚とす。

(問) 泌尿器の名稱。

(答) 泌尿器は身體中の不要産物を血液の濾過作用と腎の腺細胞固有の働により尿を形成し之れを體外に排泄するの器にして腎臟輸尿管膀胱及尿道とす而して男子の尿道は生殖器の射精道と同じくするを以て一名生殖尿道とも云ふ(而して陰莖の龜頭より排泄せらる)

(問) 上膊筋の名稱。

(答) 前側に三筋あり。

一、二頭膊筋 二、烏喙膊筋 三、内膊筋

筋

後側に二筋あり。

一、三頭膊筋 二、小肘筋

以上の五筋とす。

(問) 下頸叢より出づる主要なる神経の名稱を擧げ。

(答) 下頸叢(或は膊神經叢)より出する者を長短二種に大別し、短神經の主なる者は前、後胸廓神經、肩胛上神經、腋窩神經等にして、長神經の主なる者は正中神經尺骨神經及び橈骨神經其他經過間に於ける皮枝筋枝等なり。

(問) 外臑部筋の名稱。

(答) 外臑部筋は四層にして七筋あり。  
(一)大臂筋(二)中臂筋(三)小臂筋(四)内鎖筋(五)梨子狀筋(六)方形股筋(七)外鎖筋とす。

(問) 迷走神經の起始并に分佈區域を問ふ

(答) 迷走神經は一の内臟神經にして咽頭喉頭氣管食管肺臟肝臟胃に分佈す起始は延髓の上外側より起り副神經と共に頸靜脈孔を出て直に頸靜脈節を造り其直下に於て節狀叢を形成す頸部に於ては總頸動脈及内頸動脈の後側を下て胸部にありては食管に沿ふて胃に分散す其枝別は五條あり。

耳枝は頸靜脈叢に發し耳後及耳翼の外皮に分佈す。

咽頭枝は節狀叢に生じ咽頭の粘膜に分佈し上喉頭神經は同じく節狀叢に生じ内外に枝に分れ内枝は喉頭に外枝は咽頭の筋に分佈す。

下喉頭神經は下部より返廻し上行して喉頭内に入り筋に分佈す。

心臟枝は節狀叢の下部より起り心臟に至り交感神經の心臟叢に終る。

三個の神經叢あり。  
肺臟神經叢は氣管支に循る細小枝の吻合を云食管叢は食管を纏ふ細小枝の吻合

を云ふ。

胃叢は迷走神經の末枝にして胃の前後に分散するを云ふ。  
其他舌咽神經副神經舌下神經上頸神經節の交通支あり。

## 第二科(消毒)の部

(問) 皮膚の消毒法。

(答) 皮膚の消毒法とは常に皮膚面に附着するところの細菌及垢塵をして殺菌除去するために行ふものにして細菌を撲滅せしむるには適當の消毒薬たらざるべからず即ち普通消毒薬として用ゆる石炭酸、「リゾール」酒精など適度の消毒液にて皮膚面を拭淨し無菌ならしむるにあり順序としては先づ術者の手指を豫め石鹼にて洗滌し清潔ならしめ然る後綺麗なるガーゼ或は脱脂綿を以て消毒液を使用し術者

より被術者の患部に及ぶものとす而して消毒は大なる注意を要するものなり。

(問) 鍼を消毒する效用及び薬名并に其溶解法。

(答) 鍼は組織内に刺入するが故に若し術者の手指鍼具或は患部等に細菌の附着し居らば自然組織内に侵入せしめ且又甲より乙に傳染せしむるやも知るべからざるに依り消毒し以て一は豫防に一は殺菌するの目的とす府令に示す所の薬名。石炭酸五十倍、リゾール五十倍、フォル

マリン百倍、通常アルコール。

溶解法は水或は湯にて溶解し規定の分量に調合す。

(問) 酒精と無水酒精との消毒上に於ける效能を記せ。

(答) 酒精は無水酒精に比して消毒の効力強く且つ價格廉價にして保存容易なり故に消毒を行ふには酒精(即ち含水酒精を)使用す。

(問) 施術部に於ける消毒の順序を記せ。

(答) 先づ術者の手指より始め次に鍼具を消毒し終りに患部を消毒す手指は石鹼にて洗ひたる上前記順序に規定の消毒薬を

含ませたる脱脂綿又はガーゼにて各消毒す。

(問) 施術上に於ける消毒の方法に就て。

(答) 先づ規定の消毒薬(リゾール、石炭酸、フォルマリン、アルコール等)にて針器は目的患者の皮膚及び施術者の手等充分に消毒し施術後又其の局所に絆鉛膏或はピツク氏硬膏等を貼じ置くべし。

(問) 常に消毒薬に何を用ふるや。

(答) 五十倍のリゾール水なり。

(問) 何故リゾールを用ふるや。

(答) 水に溶解し易く又其着色・度により溶液の強弱を判明し易きが故なり。

(問) 色は如何なる色にするや。

(答) 普通五十倍にして日本酒色を呈し百倍ならば無色となり百五十倍にして乳白の混濁を呈すべし。

(問) 石炭酸の使用法。

(答) 石炭酸は五十倍に溶解して使用するものなるが故に、先づ結晶せる石炭酸の瓶口を開放したる儘、火又は温湯にて外より煖め、全部溶解したれば瓶頸まで水を入れて之れを震盪し即ち含水石炭酸と爲して保存し置き、入用に應じ、石炭酸二%の割に稀釋して使用するものとす。

(問) 「フォルマリン」の使用法を記せ。

(答) 「フォルマリン」は通常瓦斯性の水溶液なるを以て此一瓦を取り水九十九瓦に混じ即ち一%の含水「フォルマリン」として使用する。

(問) 鍼灸術者に消毒の必要ある理由。

(答) 近世細菌學の發達により總ての傳染性疾患は皆下等植物に屬する微菌と下等動物に屬する原虫とに由り惹起し物體より人體に或は人より人に繁殖の機會を待ちて傳染し以て戰慄すべき疾病を發起する者たる事を確められたり例令は百斯篤再歸熱が蚤虱の刺傷より傳染するが如く是等小虫の刺傷よりするも尙斯くの如き

(問) 消毒藥の名稱及其溶解法は如何。

(答) 通常アルコール、石炭酸五十倍、ゾール五十倍、フォルマリン百倍とす水或は湯にて溶解し然る上メートルにて量るべく。

(問) 鍼器の消毒法。

(答) 鍼器即ち鍼、鍼管等を消毒するには豫め規定の消毒液中に浸し置き之れを消毒液に浸せる脱脂綿を以つて淨拭すか、又は永を容れたる器物に入れて十分間以上沸騰して消毒するものとす、但し之を行ふに手指の消毒を先きにす。

(問) 理學的消毒法。

人命を犯すに至る處の病原體を身體内に侵入せしむるの機會を興ふる事あり故に我が鍼灸術の如き皮膚筋肉に對し損傷せしむる技術にありては堅く其侵殖を防がざるべからず而して鍼灸家たる者の常に近き關係を有するは彼の化膿菌なり化膿菌たるや常に吾人の皮膚、衣服其他器具等に附着し僅微の損傷部と雖も直に進入し化膿を來すを以て鍼灸家たる者は常に其施術に際し手指鍼具並に患部を消毒して無菌ならしめ以て微菌傳染の防止を計らざる可からず之れ鍼灸術者に消毒の必要ある所以なり。

(答) 消毒法の分類には種々の名稱ありと雖も(一)化學的消毒法(二)理學的消毒法の二に分つを普通とす而して今左にその理學的消毒法を述べし。

一、灼熱消毒又火力消毒法とも稱す微菌は攝氏百度以上に於て始めて死滅するものなれば百度以上の熱中にて十五分以上灼くものとす。

二、蒸氣消毒とは消毒すべき物品を沸騰より出づる蒸氣に觸れしめてその熱力にて微菌を死滅せしむる所の方法を云ふ。

三、日光消毒とは消毒すべき物品を日光

に直接暴露して太陽熱によりて微菌を死滅せしむる方法を云ふ。

(問) 何故患部のみアルコールを用ゆるや

(答) 石炭酸水にては皮膚面上に附着する脂肪其他の汚物を分解除去する力薄き故アルコールを用ふれば去る患なく充分消毒されるればなり。

(問) 凡ての消毒藥缺乏せし時は何を以て消毒するや。

(答) 凡ての消毒藥缺乏せし場合に於ては止むを得ず石鹼又は熱湯を以て消毒をな

す即ち手指局所等は石鹼にてよく洗滌し器具器械は熱湯に浸積して之れを用ゆ。

(問) 消毒法は如何。

### 第三科(鍼灸)の部

(問) 取穴の方法。

(答) 古來取穴の際には多く十四經を標準として或ひは一骨より右に何寸糸又は紙等にて其標準を定めたるものなれども現今の學理上或は其の當を得たるものあり或は其當を得ざるものあり故に現今は専ら解剖學に鑑み外皮より探ぐるに便なる骨を標準にして筋の形狀及び神經徑路に

(問) 第一に手指を消毒し鍼點は通常三十倍石炭酸水にて約五分間計浸漬して消毒をなし患部は常にアルコールにて消毒す

從ひ就中容易にして大なる刺戟を與へ得る部其他中樞部の脊髓神經等に由りて一々解剖的觀察の許に之を定むるを最も得たりとす。

(問) 膀胱麻痺の鍼灸治法。

(答) 膀胱麻痺とは膀胱筋膜の麻痺せるものにして其の排尿筋に存するものは初期排尿射出の勢なく努力するも只だ點滴



するのろなり是れが鍼灸治法としては耻骨軟骨接合の上際(曲骨下極)に刺鍼約一寸灸七壯毎日一二回施し尙内臓手術として第四第五腰椎の兩側(上膠、小腸俞、膀胱俞)に施鍼點灸して能く効を奏するものなり。

(問) 疝痛の治療法。

(答) 疝痛とは腸に機質の變なく腸間膜神經叢若しくは下腹叢に發する所の神經痛にして腸管の筋弛張し風氣鬱滯等に因り誘起するもの多し故に之が鍼治療法としては各原因症狀等に因り多少異なるると雖も通常腰椎各側(三焦俞、腎俞、大腸

俞、小腸俞)に刺鍼又は施灸し以て其過敏なるものは之を鎮靜し又皮膚の血行を

促進し消化機能等を調和せしむ。

(問) 腦頭蓋正中線に於ける經穴の名稱。

(答) 腦頭蓋正中線に於ける經穴の名稱を前方より後方に齎つて數ふれば、神庭、上星、顙會、前頂、百會、後頂、強間、腦

戶、風府、瘰門則ち是也(をばり)

(問) 膝關節部に於ける七穴名を示せ。

(答) 膝關節部に於ける穴名七穴を擧ぐれば犢鼻、陽陵泉、委陽、陽關、曲泉、陰谷、委中等なり。(之れ以外に膝眼を入れる可なり)

(問) 膈俞、肝俞、膽俞の部位並に主治。

(答) 膈俞は背椎第七第八横突起間肝俞は同じく第九第十横突起間肝俞は同じく第十第十一横突起間にして何れも脊中を去る約一寸五分の所なり胃肝腸脾腎等の疾病に應用す。

(問) 竅陰、青靈、心俞、盲俞、解剖的部位並に神經の關係及び禁鍼禁灸を記せ。

(答) 竅陰、頭部に在るものは乳頭突起根部の後縁、耳後筋中にして小後頭神經及び耳後神經分佈し、足部に在るものは第四趾爪根の外側に於て長總趾伸筋腱の外縁にありて脛骨神經の交通枝分佈せり

青靈(禁灸)上膊骨の前内側、内上髁の上

二寸にして二頭膊筋の内縁に在り、皮下に内膊皮下神經、深部には尺骨神經分佈せり。

心俞(禁灸)第五胸椎棘状突起の兩傍一寸の所にして僧帽筋中に位し、副神經、脊椎神經の後枝、肋間神經等分佈せり。

盲俞。臍の兩傍五分の處にして直腹筋中に位し、肋間神經前穿行枝分佈せり。

(問) 乳根の經名及部位。

(答) 乳根は足の陽明胃經に屬し第五肋間乳腺部に於て大胸筋の下部にありて肋間神經分佈し前肋間動脈之れに循る。

(問) 同名異穴の穴名十個及び其部位を記せ。

(答) 手の三里は撓骨外後縁にして撓骨小頭を下方に去る約一寸五分、膊撓骨筋と長外撓骨筋の間にあり、足の三里は上脛腓關節の二寸下方にして長總趾伸筋中にあり、手の五里は上膊骨螺旋狀溝の下部にして三頭膊筋外縁にあり、足の五里は大腿の内後側にして鼠蹊溝の下二寸五分、耻骨筋中にあり、腰の陽關は第四第五腰椎棘狀突起間にあり、棘間筋中にあり、足の陽關は大脛骨外上髁の上際腓腸筋外頭の起始部にあり、頭の臨泣は眉弓中央

の上方髮際を入る五分の處にして前頭筋中にあり、足の臨泣は外髁の前方二寸にして長總趾伸筋中にあり、頭の竅陰は乳嘴突起根部の後縁耳後筋中にあり、足の竅陰は第四趾爪根の外側長。

(問) 腰椎の兩側に存する經穴及其主治。

(答) 胃俞、三焦俞、腎俞、氣海俞、大腸俞、關元俞及痞根にして是等の主治は腹部内臓に於ける機能の旺盛又は減衰に由る諸疾患、腰痛並に下肢に於ける神経痛或は麻痺等とす。

經穴中の雲門は鎖骨窩下の部にして三角筋の傍腕を擧げて之れを取る又中府は第

三肋間の間なりと答へたり右答案は實に余が當日答案せしをそのまゝ爰に述べたるものにして敢て少しも改正したる所なし。

(問) 胸部正中にある穴の名稱。

(答) 天突、璇機、華蓋、紫宮、玉堂、膻中、中庭の七穴なり(禁鍼灸のものなし)

(問) 扁桃腺炎に對する解剖的刺點並に穴名。

(答) 本病は其輕重状態に由り鍼治のみに委する能はざる場合あるを以て其時機を過たず醫療を勸告する事勿論なれ共鍼治としての目的は専ら誘導法として上位頸

(問) 手の大陰肺經の名稱と其禁鍼灸穴の位置を問ふ。

(答) (名稱) 中府、雲門、天府、俠白、尺澤、孔最、腕骨、陽溪、偏歷、鬼宮、中渚、液門、少澤、少商の十一穴なり。

(禁鍼灸穴名) 雲門、鎖骨下窩の部、臂を擧ぐれば上膊骨と鎖骨及び肋骨との陷中。

(禁灸穴名) 天府、腋下一三寸、雲門の下二寸、

大淵 經渠の直下即ち掌後の陷中。

(問) 婦人消渴(尿道加多兒)の灸治法。

(答) 婦人消渴(尿道加多兒)には腰椎第四第五の兩側棘状突起を去る左右一寸の所及び石門即ち耻骨縫際の上縁に點灸し以て戟戟を下腹叢に及ぼし曳て膀胱及尿道に其の刺戟を傳搬して以て其の効を奏するものなり。

(問) 子宮痙攣に對する刺鍼の部位及目的

(答) 子宮痙攣に對しては腰部第四第五腰椎兩側及び薦骨部の後面に於て交感神經下腹叢より出づる子宮神經を目的として刺鍼すること一寸乃至二寸然る時は腰部

與ふるも又偉大の效果あり。

(問) 脚氣の處置法。

(答) 脚氣病たるや或は一種の傳染病にして固有の微菌によるとし或は青魚屬の中毒なりと云ひ或は營養の障害等に起因するものなりと未だ確然判明せず神經性萎縮性水腫性及び急性惡性症の諸症ありて醫治又困難とし隨て療法の如きも區々なりと雖も輕症に在りては轉地或は鍼灸灸治に依て能く効を奏するものなり然れども急性にして心臟を劇侵するものゝ如きは其療法最も注意すべきものとす。

(問) 肋膜炎に刺鍼の可否如何。

交感神經は刺戟を下腹叢より子宮神經に傳搬して興奮せる子宮神經の機能を減衰せしめ以て痙攣を緩解し疼痛を鎮靜せしむるにあり。

(問) 急性下痢症及び下腹痛に對する鍼灸法。

(答) 急性下痢及び下腹痛は第六乃至第十一背椎神經を目的として背椎の下部及び腰椎上部の各側に之を施し刺戟を交感神經の大小内臟神經より胃叢及上腸間膜神經叢に傳搬せしめて以て亢奮せる胃或は腸をして鎮靜せしむ可し然れども又誘導法として下趾末端即ち趾背に刺戟を

(答) 刺鍼の肋膜炎に於けるや奏効する事能はず此の症殊に急性危機の症なるを以て速かに醫治を進め病既に回復期に至れば往々内臟の障害あるを以て内臟治鍼として腰椎の兩側に刺鍼し其の回復を短縮せしむ可し。

(問) 上膊神經痛に對する刺鍼點及び其目的。

(答) 上膊神經痛に對しては膈神經叢を目的として後頸部及び肩背に刺鍼し尙上膊神經の徑路に従ひ刺鍼を施すべし。

(問) 筋肉中に刺鍼せば如何なる障害を起すや。

(答) 學者の説に由れば折鍼後三四日間局

所運動の際痙攣状の疼痛を發起するも爾後消散し數年を経るも敢へて異状を呈せず又折鍼の他に移轉し障害を起せし事無きが如し且つ古人は鍼は身體中に於て溶解すと論せり又近時動脈試験に由り其の結果溶解せりと説くものあるも他の實驗より之を見るときは往々結締織内に包埋せられ異常なきことあるも亦た他臓器中に遊走して危険を醸すことあり故に素より其の危険の有無の如きは重要な問題なるを以て輕々の論斷を下す能はざる也。

(問) 骨に鍼光の刺的せし時は如何。

(答) 骨には骨膜なるものあるを以て之を

損傷せしめ骨膜炎を起す恐れ無きに非らず而して斯の如き事無き場合と雖も部位に由り又疼痛に堪へざるものとす。

(問) 鍼治は機質に變なき神經の變常の外効なきや。

(答) 鍼治は機質に變なき神經の變常の如きは勿論適應症とせるも亦其病の輕重及症狀或は其の侵さるゝ部位に由り實質的變常にも絶體的効なきにあらざるべし例之齒齦炎輕微の子宮内膜炎結膜炎及び脚氣等の如きは誘導法又反射刺戟に由り能く其効を奏するは官能的疾患に於け

ると敢て大差なきものなり。

(問) 内臓に對する刺鍼の部位。

(答) 内臓の刺鍼點は胸腔内臓と腹部内臓とに由り差異あるものとす胸部内臓即ち肺臓、心臟等に對する刺點は交感神經を目的として頸部一乃至七頸椎の兩側に之れを求め腹部内臓即ち胃、腸、子宮、膀胱、腎臓、肝臓、等の諸臓に對して腰部第一乃至第五腰椎の兩側に刺點を求む。

(問) 麻痺及び痙攣に刺の効ある理由。

(答) 麻痺は神經機能の減衰に起因するが故に其の患部に強刺戟を與へ以て減衰せる神經機能を興奮せしむるに由る則ち筋

肉及び神經は刺戟に由り興奮する性あるが故なり之れに反し痙攣に於ては運動神經の機能の興進に由るものなるが故に患部に刺戟を與へて其の機能興進を減退せしむるにあるなり則ち神經の興奮性たる一定度に止まり其の以上は減衰するものなるを以てなり故に専ら患部又は中樞部に行ひ時として神經は生理的撰擇作用をあるを以て何れに施鍼するも其の枝に達すれば驚くべき効あるものとす。

(問) 麻痺及び知覺脱失の刺鍼法。

(答) 麻痺に於ては其の麻痺せる筋を司配する神經の幹部及び徑路に従ひ又は麻痺

せる近部に細き鍼を選びて稍々強き刺戟を與ふべし又知覺脱失に於ても麻痺と同じく支配せる神經の幹部又は徑路に従ひ其の他脱失の近部に同じく細き鍼を以て斜めに神經に強き刺戟を與ふべし兩者何れも沈衰せる神經を刺戟に由り興奮せしむるの目的にあり。

(問) 太陽叢の部位並びに鍼治上の關係

(答) 太陽叢は一名内臟動脈叢と云大にして内臟動脈軸の部位にあり胃、肝、脾、腎、上腸間膜等に支別を與ふ大小内臟神經の合したるものにして最も鍼治上の關係密接にして腹部内臟の重なる疾患に

(問) 各病症に由り其の刺戟奏効の部位を異にし一言にして盡す能はずと雖も其の避くべき處即ち前頸部胸部及び腹部

其の他四肢の内側等貴要器官の存在する所を除くの外身體中何れの部分に施すも敢へて害ある事なきを以て其の症狀に従ひ臨機の部位を撰むならば奏効自ら舉りて危険を残すが如き事更に無きものなり

(問) 鍼の効用

(答) 鍼は神經刺戟の一にして制止興奮誘導の三作用あるを以て神經痛及び痙攣を緩解し知覺脱失及び知覺鈍麻並びに運動の麻痺を癒し分泌及び排泄を促がし消

對しては殆んど此の神經を目的に刺戟を施すものにして之れを求むるには多く腰椎の上部に於てし奏効最も偉大なりとす

(問) 刺戟の際注意すべき二三の事項

(答) 刺戟の際注意すべき事項は患者の體質及び病の性質を考へ熱激しきもの傳染病又は皮膚に見るべき變化あるや否や其の他貴要器官の位置を考へ鍼の細大、長短或は刺戟刺戟の度等に注意し殊に鍼を精選して消毒を怠る事なく施術中專心意を鍼に注ぎ只管謹嚴の態度を取らざる可からず。

(問) 身體中刺戟の効力ある部位

化を進め且つ胃腸の蠕動を高めて營養分の吸收糞便の排泄などを能くし其の他炎症の初期或は動脈性充血に用ひて其の血液を誘導する効あるものとす。

(問) 鍼の刺戟

(答) 鍼の種類又は刺戟の目的及術式流派等に由り異なれども要するに先づ刺戟部を按撫し刺戟に慣れしめ次で左中指腹と拇指腹とにて押手となし食指を添へ皮膚の滑動及び身體の動搖を制し皮膚に疼痛を感じしめざる様右拇指及食指にて各適宜に刺入するものとす。

(問) 鍼はどんな作用があるか。

(答) 鍼は神經及び筋肉を刺戟して其作用を興奮せしめ又は鎮靜せしむる作用があります。諸般の疼痛痙攣麻痺等に最も効があります。

(問) 鍼術は如何なる疾患症候に適するや。

(答) 鍼術に適する疾患症候は神經官能的の疾患即ち諸臟器等に於ける機能の旺盛又は減衰並に腦脊髓等の官能的諸般の疼痛、局處の充血貧血又は知覺及び運動の麻痺、癱換、知覺、脱失、強直、痙攣等なり而して是等の神經系諸病は最も特異の効果を奏するものにして其他鍼術

は消化機能及び營養機能を喚起する處の作用あるが故に又適應症に數ふるを得可し。

(問) 鍼の効用。

(答) 鍼は神經刺戟の一なれば制止元奮誘導の三作用に由り能く諸病症を治療せしむ即ち制止法とは筋神經其他内臟機能の亢進せるものに向つて鎮靜緩解せしむるの手術にして疼痛痙攣嘔吐下痢等を鎮靜せしむる物なり亢奮とは身體諸機能の減衰せるものを振起せしむる手術にして即ち麻痺知覺脱失機能等を快復せしむるものなり誘導法とは患部より隔たりたる

部位を刺戟して血液を其の部に誘導するの手法にして即ち腦の充血に對し四枝の末梢に刺戟して反射的に腦の血管を收縮せしむる等なり。

(問) 刺戟の法とは。

(答) 先づ患者の局部に及ぶ可き丈け壓力を與へ以て施術者の左手の中指を局部にあて拇指を次指とにて鍼の中央をもち右手の拇指と次指とにて鍼柄を以ち總方呼吸を計りやはらかに身體組織中に刺入して一の神經を刺戟するを刺戟の法とは云ふなり。

(問) 鍼の術式。

(答) 術式を大別して單刺雀隊施捻迴旋振震置鍼間歇術の七種に區別す

(問) 置鍼術とは如何。

(答) 刺入後鍼を漸時二分或は五分時放置し後拔出する手法にして専ら制止の目的に用ふ。

(問) 鍼にして若し神經纖維を切斷したる場合は如何たる現象を呈するや。

(答) 敢へて何等恐るべき事なし如何となれば鍼に由つて切斷されし神經纖維は僅微にして殆んど顯微鏡に由らざれば知れ難き程の至つて小部分にして假へ切斷せられしと雖も直ちに復舊さるべき一の

特異機能あるを以て敢て人身に危害ある事なし。

(問) 鍼治に於ける制止竝に興奮法とは如何其一例を示せ。

(答) 一、制止法とは筋神経分泌機等の興奮及脈管膨脹して血液の灌漑旺盛せるものに對して鎮靜緩解收縮せしむるの手術にして例令は知覺官能の旺盛に因る過敏疼痛、又は機能與進に因る痙攣搐搦震暢を緩解し或は嘔吐下痢を鎮靜し膨脹せる血管を收縮せしむるの法なり之れ生理學上神經は一程度を越へし刺戟又は陸續刺戟して止まざる時は遂に神經疲勞

(問) 刺戟刺戟の緩急強弱は何に由て定むるや。

(答) 刺戟刺戟の緩急強弱を計るは鍼治療上の緊要事にして是を定むるには病狀體質及び部位の三方面より考察するを要す。

(一) 病狀、疾病の種類に因て各々刺戟の度を斟酌せざる可からず、例へば麻痺、知覺脫失等には痙攣性に對するよりも強大なる刺戟を要し、又生理學上運動神經に向つて同時に強弱二個の感傳電氣を通ずる時は強電氣のみ作用するが如き成績を示すを以て疼痛等に對する刺戟の度

し其興奮力及傳搬機能を減衰し且つ一時麻痺せしむるの理に基けり。

二、興奮法とは身體諸機能の減衰及麻痺したるものに對し發起興奮せしむるの手術にして例令は知覺及運動の麻痺知覺異狀又は鈍麻せしものを正調せしめ或は神經機能の變狀より起る月經閉止又は尿利便通等を催進し其他内臟機能及營養機能を喚起興奮せしむる法にして恰も神經機能の喚起法として電氣作用に於けると敢て異ならざるのみならず却て一局部に施し得るを以て優れるも劣らざるの手法なり。

は其病的刺戟の度に超過せしむることを要するが如き即ち是也。

(二) 體質、患者の體質即ち男女、年齢、肥瘦等に由て亦其度を異にせざる可からず、例へば男子は女子よりも、又多血質及び脂肪質の者は比較的強大の刺戟に堪へ、尙又神經質の者は輕微の刺戟も大なる感覺を起し時には反射的に全身汎發痙攣を發して甚だしきは腦脈管の收縮を起し貧血を來して往々一時失心する事あるが如き即ち是也。

(三) 部位、亦刺戟の部位に由り其度を計らざる可からず、即ち腹膜は身體中最も

知覺鋭敏なるが故に直鍼は尠か斟酌して  
輕微の刺戟に留む。

(問) 押手(或は壓手)に就て記せ。

(答) 押手或は壓手とは刺鍼の際、左手の  
拇指と示指を刺鍼部に當つる事を云ふも  
のにして刺鍼上緊要のものなり、而して  
押手は一旦刺鍼部に當てたる以上は抜鍼  
するまで動搖せしめず動搖せしめて皮膚  
を滑動せしめ以て患者に疼痛を與ふるが  
如きこと無からしめ、其の壓力は場所に  
依りて適宜斟酌し決して強大到過ぎ或は  
輕微に過ぐるが如き事なからしめ、兼ね  
て患者の身體が動搖せし時、之れを制禦

奮し神經機能を調節し以て麻痺を恢復せ  
しむる作用あるものなり。

(問) 痙攣とは如何なる者か其原因症候を  
言へ。

(答) 痙攣とは運動神經の疾患でありまし  
て不随意に筋收縮を起す者を云ふので、腓  
腸の痙攣顔面筋の痙攣、内臓に於ては胃  
痙攣及び子宮痙攣の如き者を云ふのです  
原因は種々ありますが多くは神經刺戟に  
依る者で神經質の人に多く又纖弱なる婦  
女子に多く來る者であります。  
症候としては其患部に依りまして一様で  
は有りませんが多くは局部に劇痛を感じ

するの用を爲さしむ、斯くして刺鍼の前  
後には刺鍼部を以て押手を揉按し或ひは  
刺戟に押らしめ、或は鍼口を閉すべし。

(問) 中樞及末梢の麻痺に對する刺鍼點。

(答) 末梢は其の局部に於いて神經徑路に  
從つて之を行ひ中樞は後頭部及腰部に施  
す者とする。

(問) 麻痺に對する鍼治の作用。

(答) 麻痺は鍼治の適應症の一にして神經  
機能の減衰せるものなるを以て其機能を  
亢奮し麻痺を恢復せしむるものなり其鍼  
治の作用たるや制止亢奮誘導の三作用あ  
るを以て麻痺せる部分に鍼治を施せば亢

牽引、凝固刺痛、切痛を感じ甚だしきは  
一時人事不省に陥り頓と絶息狀を呈する  
者もありますが脈經多くは細數を呈せず  
又た敢て發熱もしないです而して子宮痙  
攣の如きは苦悶數時を経て暖氣睡眠に由  
て自ら諸症緩解し一も宿患を貽さざる  
は常に見る所で有ります。

(問) 頭痛の灸治點。

(答) 頭痛の灸治點は後頭部、肩背に點灸  
し顙額部は成るべく灸壯を小にし又誘導  
法として四肢の末端に施灸す。

(問) 頭痛を訴ふる患者の灸治の部位如何

(答) 先づ第一に誘導法として四肢に施し



尙直接に顳額部後頸部等に施す。

(問) 頸部に刺鍼して聲音を停止せしむる事あり如何なる因に由るや。

(答) 聲門帯の麻痺又は痙攣に由るならん

(問) 頸部に刺鍼の避くべき部位及理由。

(答) 刺鍼を避くべき部位は延髓部前頸部等にして頸動靜脈 喉頭氣管等の存在せる故也。

(問) 齒痛に對する灸治法を記せ。

(答) 齒痛に對する灸治は耳翼の下際即ち耳下腺叢を目的とし患側に之を行ふ然る時は顔面神経より反射的に三叉神経に刺戟を及ぼし三叉神経は所々に於て前者と

咽筋痙攣、膈神經痛及麻痺(尺骨橈骨及正中神經) 肋間神經痛、痛神經性消化不良、官能的月經閉止、胃及子宮痙攣及坐骨神經痛等なり。

(問) 淋毒性等丸炎に對する灸治點及壯數

(答) 是れに對する灸治點は腰眼大腸俞小腸俞膀胱俞上竅次竅等に施灸す壯數は疾病の輕重及體質の如何により差異ありと雖も先づ五壯乃至九壯を通常とす。

(問) 疝痛の主徴及灸治點の解剖的部位と穴名を説明せよ。

(答) 疝痛とは腸に器質的變なく腸間膜神經叢若くは下腹叢に發する所の神經痛な

交通せるを以て鎮痛の効を奏す之れ神經

は生理的傳搬作用有るを以て何れの枝に達するも驚くべき効あり尙又上齒痛の時

は三叉神經第二支を目的とし顳骨突起の上顎骨に接する稍や下方に於て施すも可なりと雖も顔面の美を缺く恐れあれば患側に於て後頸部を宜しとす。

(問) 神經系病にして灸の適應症を列記せよ。

(答) 神經系病にして灸の適應症に屬するものは神經痛、痙攣麻痺、知覺脫失及異狀等にして其侵さるる部位により其重なるものを舉れば三叉神經痛、顔面神經麻痺、咀

り其主徴は間歇性の疼痛にして輕易なるものと劇甚にして鑽るが如く劈くが如きものあり而して其疼痛は普通臍部より四圍に渡り按壓反つて輕快を覺へ甚しきは其痛み臀部より腰部に波及し腹中頻りに雷鳴を發するものなり而して是が灸治點は第一第二第四腰椎の棘狀突起の兩側約一寸第五腰椎と薦骨翼との中間及薦骨孔上に施す。

(問) 足の尺度法。

(答) 足の尺度法は足の外顆と外輔骨の間即ち腓骨の上下兩端に亘る長さを一尺三寸とし以て足の尺度に用ゆ。

(問) 膝關節レウマチスに對する灸穴の名稱及び壯數。

(答) 膝關節僂麻質斯に對しては其局所療法として關節の周圍即ち陰市、梁丘、陽關、三里、血海、曲泉、陰陵泉、膝眼、犢鼻等に穴を求め尙は反射的に腰部の氣海俞若くは大腸俞に施灸す、而して其壯數は七壯乃至十壯とす可し。

(問) 官能的月經閉止に對する解剖的刺鍼點並に穴名。

(答) 官能的月經閉止は多く神經機能の變狀に由る。

(問) 小兒の夜泣(又夜驚、夜啼)に對する

び腸の機能を興奮せしめ消化力を進むべく第九以下の胸椎棘突起の兩傍一寸の所(肝俞膽俞脾俞胃俞)及び全腰椎棘突起の兩傍一寸の所(三焦俞腎俞氣海俞大腸俞關元俞)に施鍼し以て内臟神經に反射的作用を起して調節し又貧血及び腺病質のものには血行を調節すべく頸部並に肩背及び四肢の末梢にも施鍼す但し病の輕重及び年齢に由りて手術點を増減し皮膚鍼にて可なるも又二分乃至五分は刺入するを要することあり其他は原因の除去に努む。

(問) 腹痛に對する灸治點及び其作用。

刺鍼の方法並に其部位、(但し本問題に對して其原因は消化不良との説明ありたり

(答) 先づ第一に腦の亢奮を鎮靜すべく誘導の目的にて頸部、肩背及び下肢に皮膚刺鍼を行ひ、然る後原因療法として消化機能を旺盛ならしめ且つ便通をも促す可く腰部に同じく皮膚刺鍼をなすと雖も又其症狀の如何に由りては二分乃至五分位刺入するものとす。

(問) 小兒消化困難症に對する施鍼の部位目的。

(答) 其原因が不適當の食物、飽食、過飲等の内と假定すとの説明に付き第一胃及

(答) 腹痛に對する灸治點は蓋し腹痛なるものは種々の原因より來るものなれば豫め其の適應症なるや否やを診定し機質に變化ある癌腫又は腹膜炎等より發する腹痛の如きは勿論灸治を施す可からず牽て意外の危害を招く事あればなり故に今神經系統より發する腹痛なりとせば下背部腰部及薦骨部の棘突起の外側約各一寸の處に求む可く又或は時に腹部に直接灸治を施す事あるも腹部の如きは成べく避くべきを可とす、其作用たるや即ち其部の知覺枝に由り刺戟を交感神經の内臟動脈軸叢に傳搬し以て血液の變調を來さし

め興奮せる内臓の神経を沈静せしむるものなり。随て腹部にも上腹中腹下腹部の別あれば其は適宜に克く其の症状と部位を診定して各適當の點を求むべきものとす。

(問) 坐骨神経に對する刺點如何。

(答) 大轉子と坐骨結節との中間及び大腿の後面膝窩に至るの部に於てす。

(問) 神経痛とは如何其症候を語れ。

(答) 神経痛とは知覺神経の機能興進したる者で有まして即ち生理的刺戟例之は血液の循環組織の緊張及び筋肉收縮に由りても疼痛を發する者で有ます。

症候としては其末梢性又は中樞性に由り

少しく異なる者ですが多くは神経の一枝又は數枝に劇痛を感じ其の痛は持続性なるあり又歇缺性なるも有ります而して按壓に由て輕快する者で有ます。

(問) 灸症の局所に刺鍼を致すや。

(答) 致しません。

(問) 何故にせざるか。

(答) 唯さへ化膿成さんとなし居る故刺鍼等を致せば反て重症と成ります。

(問) 然らば如何なる患者に致すや。

(答) 憾能的疾患者即ち胃の痙攣齒痛及一般神経痛等總て神経機能の疾患に致し

ます。

(問) 施鍼を忌避すべき部位。

(答) 心臟肺臟の如き貴要の臓器及び大なる血管心神経胸膜外後頭結節の下部(延髓に近を以て)小兒の總門(縫合の間隙あるに依る)等は勿論激しき熱性病甚だしき衰弱者妊娠五ヶ月以上の者且つ組織に變化ある部例へば傷痕疽發疹其他傳染病に罹れる者等は最も注意して避さるべからざるなり併し炎症は症状と部位とに依り誘導の目的を以て皮膚鍼するは敢て害なし。

(問) 傳染病の八種はコレラ、セキリ、チ

ブス、癩疹チブス、デフテリヤ、ペスト

シヨールコーネツ、チヨールチブス等なり。

(答) 全身普く動靜脈の分布せるにかゝはらず何故頭部避くる必要あるや。

(答) 頭部は殊に淺層に於て大動脈を存在するが故若し之れに刺鍼する時腦貧血起る。

(問) 動脈に刺鍼したる際は如何。

(答) 溢血を生じ又は血栓血塞等を惹起すべし。

(問) 禁灸の部位を記せ。

(答) 禁灸の部位たるや往昔は何所の穴に禁灸或は禁灸と定められたれども現今

の學理上其當を得たる者あり或は當を得ざる者あり故に現今は専ら解剖生理學並に病理學上より鑑み以て禁灸の部位とす灸の禁忌症に付ては發熱甚だしきもの衰弱甚だしきものその他傳染病、皮膚病腫脹、寄生虫又は機質に變化あるもの壞疽、萎縮、變性肥大、炎症等に對し禁灸す。

(問) 八種傳染病患者と認めたる時の處置如何。

(答) 勿論施術は大忌禁にして即刻醫師に其の旨を報じ醫師來診迄に患者の體位及び急救處置假へば(冷奄法温奄法等)に

部に貼せしむるを可とす。

(問) 妊娠中胃痛を發したる患者の鍼治は如何なる點に施すや。

(答) 議論マチ／＼にして或ひは危険なりと云ふものあれ共鍼灸は決して實際上の有害を認めず寧ろ機能を調理し受胎期を強からしむの効あるを以て決して差支へなきものなり、然しかゝる患者に接したる時は可成刺戟を軽くし反射及び誘導の目的に由つて腰柱第一第二第三の各側及び四肢に施すものなり。然れ共之れは師より聞き得たる理論に止るものにして予の如き拙手は常に禁鍼禁

注意し醫師來診後其指揮に従ひ應當の處置を取るべし必ず陰蔽或ひは猥りに施術する等の行爲なき事を常に銘じて怠らざるべし。

(問) 灸點部に癰痕を生ずるは如何なる理由に由るや。

(答) 灸治を施すには艾葉を以て局部に一の火傷を起さしめ皮膚の乳頭を傷け而して眞皮は再び復舊され難きを以て癰痕組織となり灸痕を残す又局部に化膿菌等の浸入する時は化膿して癰痕前者より稍や大となる故に點灸後は消毒を嚴重にし且つ撞破を避けん爲め患者は臍創膏等を局

灸を遵守しつゝあり。

灸治の作用に就て述べよとの事に付き余はこれに對し直接反射誘導等の作用あるを以て胃瘧、子宮瘧等の如き運動神經の興進したる神經機能の變狀を調節し又之れに反し神經麻痺の如きは神經機能の減衰なるを以て知覺及運動神經機能を興奮させ以て神經機能を調節する作用あるものなりと答へ。

(問) 誘導法とは如何。

(答) 誘導法とは腦の充血に對し四肢の末梢を刺戟して其部の毛細血管を擴張せしめ他部の血液を爰に誘導するが如き事

を云ふ例せば彼の醫師が腦膜炎の患者に對し芥子の脚浴或は足部へ芥子泥を點すると同一の理ならん。

(問) トラホームに刺鍼の効あるや。

(答) 本病は結膜に發する器質の變化にして傳染病の一なるを以て鍼治にて全治を期し難し然れども誘導的刺鍼せば其部の疼痛を緩解し血流を調和し以て幾分効を奏するを得べし。

(問) 健體に於ける刺鍼の作用。

(答) 健體に於ける刺鍼の作用たるや其神經の種屬に從て顯象を異にするものなり通常知覺枝に於ては其部にリュウマチ

ス様の疼痛を感じ被鍼して神經枝より隔離すれば疼痛直に止む而して其刺戟強烈に過ぎ組織に變化を起さしむるが如き事あらば強弱に由り其趣きを異にすと雖も通常の刺戟は求心性に由り中樞に傳達し中樞細胞は直に興奮して更に之を遠心性により末梢に向て傳搬し以て局所の筋又は血管を收縮せしむべし若し刺戟をして連綿持長するか或は過度ならしむる時は神經を疲勞せしめ爲めに興奮性減衰し甚だしきに至りては知覺脱失從ふて之に伴ふ運動麻痺を發し以て其傳導機能を失ふに至るべし、運動枝に於ては分布する

所の筋肉に痙攣を發し刺戟を停むれば其顯象直に止むべし而して若し連綿過度なる刺戟を與ふる時は知覺枝に於けると同じく興奮性の減少或は絶滅を來すべし交感神經に於ては其配下の臓器に對し少しく強直様の感起し聊か機能の旺盛を見るに至らしむ之を鍼治の健體作用と云ふ。

(問) 齒痛の刺鍼點。

(答) 上齒痛は三叉神經を目的とし耳翼直下則ち下顎骨枝に沿ふて前方に刺す事五分乃至一寸或は上齒槽神經を目的として顏骨突起の上顎骨に接する稍や下方に於

て刺す事五分乃至一寸又は下齒痛なる時は下顎隅角より斜に上方に向つて顎骨に沿ふて刺鍼五分乃至一寸或は隅角より前方一拇指の所より下齒叢神經に向て刺鍼する事五分。

(問) 其れは何神經の支別なるや。

(答) 三叉神經第三枝なり。

(問) 麻痺にも痙攣にも鍼の効ある理は。

(答) 麻痺と云ふ者は元來神經機能の衰弱したるに起因するもので有から其患部に強刺戟を與へて其衰弱を亢奮せしむるから有ます即ち神經及び筋肉は刺戟に由りて興奮する性を有するから有ます又痙

擊に於てもこそです運動神経の機能興進に依るのですから患部に刺戟を與へて其機能興進を減退せしむるを目的とするのです即ち神経の興奮性たる一定に止まり其れ以上は衰弱するもので有から専ら患部又は中樞部に行ひ時としては誘導の目的を以て遠隔部に施鍼する事も有ます而して神経には生理的選択作用あるに由り何れの部に施鍼するも其技術に妙を得ば實に不思議の効があります。

(問) 喉頭筋麻痺に對する灸治の適否。

(答) 本病は喉頭筋の運動作用を失ひ聲音の變化を來す病にして多くは不良の者な

れば灸治を避け醫師の治療を乞はしむる者とす。

然れども軽度の喉頭加答兒或は比斯的里より來たれる扁側麻痺の輕症の者は反射刺戟法と強壯療法の目的を以て頸椎患側及び下位背椎の兩側へ施灸すれば偉効ある者とす、

灸治の目的と施灸部位。

(一) 副神経後枝へ温熱的刺戟を與へ反射的に迷走神経の枝別なる喉頭神経へ其刺戟を傳搬せしめ麻痺せる喉頭筋の機能を喚起せしむる目的を以て患側の上頸、中頸、下頸等へ米粒大の小艾炷を三壯乃至

五壯宛施灸し蓋し上頸とは外後頭結節の下も二寸に於ける正中線の兩傍八分の所即ち第二第三頸椎横突起間を云ふ(天柱の内下方)、中頸とは第五頸椎棘状突起下の兩傍八分の處即ち第五第六頸椎横突起間を云ふ。

下頸とは第六頸椎棘状突起下の兩傍八分の處即ち第六第七頸椎横突起間の部を云ふ此三穴は十四經になき穴名にして依て名けたる穴名より依て茲に附記す。

(二) 強壯療法として下位背椎兩側及び上位腰椎の兩側へ施灸し其部の背椎乃至腰椎神經へ温熱的刺戟を與へ反射的に其刺

戟を太陽叢及び上腸間膜神經叢へ傳搬せしめ消化器の機能を旺盛ならしむる目的を以て四花灸、或は六ツ灸、或は階段灸或は肝俞、脾俞、三焦俞へ、米粒大の艾炷を五壯乃至十壯づゝ施灸する者とす。

(問) 肋膜炎の原因症候及び治療。

(答) 原因は感冒外傷に由りて原發し又結核性急性傳染病 肺炎腎臟炎急性關節炎質麻痺より來り十五乃至四十歳の男子に來る事多し症候、此の病態は初め胸部に針を刺すが如き劇痛を發し重に側部に來り呼吸促進乾咳あり顔面は蒼白となり食氣缺亡し頭痛を訴へ身體がだらしくな

ります。肋膜に水の溜るのと溜らないのと二種あります。

乾性の方は打診すれば短音を發し聽診上摩擦音を以て緊要とし濕性の方は打診上濁音を呈します。

療法、私は鍼灸はしません。背腰部に輕擦法を施し室内の空氣流通せしめ平素滋養物を進める等であります。

(問) 神経を過度に刺戟する時は其反應は如何。

(答) 神経を過度に刺戟する時は知覺神經に有ては劇痛を感じ尙ほ刺戟を持続すれば知覺鈍麻又は麻痺を來します。

者には最も注意して小さき艾を用ひ又は入浴後を應用する等有ります。

(問) 急性氣管枝加答兒に對する灸治の適否。

(答) 急性氣管枝加答兒に對する灸治の適否は其原因に由り異なる者とす、即ち傳染性の疾病より續發せる者又は熱候ある者或は毛細氣管支炎の如き肺炎を併發せんとする徵候ある者は灸治を避け速かに醫師の治療を乞はしむる者とす、然ども之に反し熱候なき輕症の者には鎮咳、誘導、強壯療法、等の目的を以て、頸椎兩側、背椎兩側、腰椎兩側、等へ數日間施

運動神經に有りては強直痙攣擗擗等の諸症を來します。

(問) 夫れを防ぐには如何なる方法をするか。

(答) 鍼灸術に於て過度の刺戟を防ぐには先づ患者の體質及び其性質に従ひ刺戟物たる鍼及び灸に注意し鍼治に於ては體質虛弱及び神經質の患者に對しても最も細少なるを選び知覺の最も鋭敏ならざる部に施し又は其刺戟す可き部位を摩擦し或は強壓を加へて刺戟にならしめ後に靜に刺戟をなし又灸治に於ても又是れと同じく患者神經質にして且つ灸治に俶れざる

灸すれば偉効を奏する者とす。

蓋し重症の者と雖も其恢復期に至り醫療の補助療法として施灸すれば其恢復を速進せしむ。

灸治の目的と施灸部位。

(一) 頸椎の兩側へ施灸して副神經后枝へ温熱的刺戟を與へ反射的に迷走神經の枝別なる上及び下喉頭神經へ其刺戟を傳搬せしめ喉頭氣管、氣管支等に分布せる血管を收縮せしめて其部の炎症充血を緩解せしめ且つ知覺鋭敏と氣管支筋の痙攣を鎮靜せしめ痰液の分泌を減少せしむる等の目的を以て兩側の第二

第三頸椎横突起間の部にある上頸へ一壯乃至三壯小灸を据へ、又は第一第二背椎横突起間の處にある大杼へ三壯乃至五壯づゝ施灸し。

(二)誘導法の目的を以て膏盲、或は四花或は四花患門、の内を選びて米粒大の小艾炷を三壯乃至五壯施灸し。

(三)強壯療法として下位の背椎神經及び上位の腰椎神經へ温熱的刺戟を與へ其刺戟を反射的に太陽叢及び上腸間膜神經叢等へ傳搬せしめ消化器の機能を旺盛ならしむる目的を以て兩側の肝俞脾俞、三焦俞、或は膽俞、胃俞、腎俞

或は階段灸、の内を選びて米粒大の小艾炷を五壯乃至十壯づゝ据へる者とす

(問) 上膊に於ける神經の起始、上膊神經に對する適應症及び鍼治點。

(答) 上膊に於ける神經は正中尺骨撓骨神經と及内外前後膊皮下神經にして共に脊髓神經の下頸部即ち下四個の頸椎神經と及第一脊椎神經の前根より成れる膊神經叢より起れるものなり上膊神經に對する鍼治の適應症は上膊筋の麻痺疼痛癱瘓等にして尙神經より發する前頭痛齒痛及腦の充血及貧血等に誘導法として上膊に刺戟して最も効を奏することあるを以て

一つの適應症と看做して可なりとす、其の鍼治點は下頸部及肩背に膊神經叢を目的とし其の他前記の神經の系統を逐ひて各其の部位に刺戟して可なりとす但し上膊の内側及腋窩面は大なる血管通するを以て避くるものとし其の他は上膊の何れの部位に刺戟を求むるも差支なへし。

(問) 神經刺戟の種類。

(答) 神經刺戟を別ちて五とす一器械的刺戟、器械的作用にして打撲、挫折、牽引、壓迫等に由る刺戟之れなり二温度的刺戟、零度より五十度の間に於てのみ興奮せしむ若し五十度を超過するか又は零

度以下に冷却する場合は神經の死亡を來し或は其興奮性を失ふを常とす、三電氣的刺戟電氣流は其神經内に進入の時と其消滅の時とに於て神經を刺戟する事強く又電流の變換愈々急速なれば刺戟の度も増々高し、四化學的刺戟急に神經組織中の水分を奪取乾燥せしむるもの例へば神經を空氣中に乾燥し或は中性亞爾加里の濃厚僱里設林等を塗布するに由る刺戟を云ふ、五生理的刺戟健康の體內に在りて神經を刺戟するを云ふ其性質未だ詳かならずと雖も知覺神經に在りては末梢より起り運動神經に在りては中樞より發す



るを常とす。

(問) 癩癩に對する灸治點、癩癩に對する灸治點たるや其平時に於ては神經及び血行を整調せしむるの目的として上位頸椎棘狀突起の兩傍に於ける天柱、天牖、風池並に肩背の肩井及び上肢の曲池、三里、郗門等に求め兼ねるに營養機能の亢進を計る目的を以て第一腰椎より第五腰椎に至る各棘狀突起の兩傍一寸五分の所胃俞、三焦俞、腎俞、氣海俞、大腸俞等に灸點を求む。

(問) 慢性及び急性病とは如何なるものか  
(答) 慢性病とは病の経過四十日以上數年

に涉り無熱にて依然たり急性病は経過四週以内に於て大熱候を呈し其経過定期がなくして整然たるもの多くあります。

(問) 下肢の按摩施術の要項。

(答) 下肢の按摩施術に就ては元より病症に供つて其方法及目的を異にすと雖ども先づ其一般を示せば左の如し。  
先づ下腿の兩脛骨筋族より始め次いで腓骨筋旋腓腸筋旋四頭股筋旋内送筋旋廣筋旋膜筋旋二頭股筋旋半腱半膜狀筋旋及び腎筋旋等を各種の手法を以て求心性に撫擦上行して後ち諸關節を運動せしめて血液循環を旺盛し筋力を強健ならしむ。

(問) 鍼治の不適應症とは如何。

(答) 鍼治を施して効なきのみならず却つて害あるものにして皮膚病傳染病熱性諸病寄生虫其他器質に變化あるものなり。

(問) 肋間神經痛の刺鍼點。

(答) 疼痛の部位により刺點を求む胸壁の上部にある時は胸椎の上部下部にある時は胸椎の下部に求む又場合に依りては前肋間淺刺する時あり。

(問) 鍼治の適應症とは如何。

(答) 常に鍼治を施して奏効する疾病にして神經系諸病即神經痛麻痺痙攣知覺既失強直充血に因する疾病等なり。

(問) 横隔膜痙攣の症狀及び刺鍼點。

(答) 横隔膜痙攣は吃逆の症狀を呈するものにして其刺點は頸部及び第九肋間の側部所謂章門に刺鍼す。

(問) 灸治の痕跡を生ずる理由。

(答) 灸は火熱を以て多くは直接皮膚に刺戟を與へ以て皮膚の眞皮に於ける乳頭を傷け眞皮再び補い難く以て痙痕組織となりて痕跡を生ずるなり。

(問) 鍼質は如何なるものを用ふるか。

(答) 金銀鐵眞鍮製の類がありますけれども私は金銀製の外は用ひません。

(問) 鍼灸は如何なる病に適するか。

(答) 慢性症の神経痛にします。

(問) 施術時の注意如何。

(答) 施術上の注意は数あるが其重なるものは一、鍼治を施さんとするには先づ患者を診察し鍼治の適應症なるか不適應症なるかを鑑別し適應症と認める時は眞に誠意を以て治療を應ずべく若し不適應症

なる時は其旨患者に告げて施術すべからず二、鍼治の効を貪りて治療時日を延長し患者をして不幸の境遇に陥らしむるべからず三、施術に際し醫師藥劑師の業體を模倣し其他規則によりて定められたる權限外の行爲をなすべからず四、消毒を嚴にすべき事共なり。

府縣別 年次別 全國實施試驗問題集

此の試験問題集は十餘ヶ年間全國各府縣實に施されたる問題なり受験者たるものよくその問題か涉覽比較して之れを講義録に對照研究せば自らその受験準備の目的を達する事を得らるべき事である

大 阪 府

明治四十年十二月舉行問題

- 一、皮膚の生理的作用
- 二、下肢骨及上肢骨の名稱
- 三、血液の循環作用

- 四、胃の深化作用
- 五、腎臟とは何ぞや
- 六、消毒の必要
- 七、刺鍼を避くべき部位
- 八、柏膜とは何ぞや
- 九、舌神經の作用

長崎縣

明治四十年十二月舉行問題

- 一、鍼質は如何なるものか
- 二、鍼の消毒法
- 三、動脈及靜脈とは如何なるものか
- 四、骨上に刺鍼すれば如何になるか。
- 五、指部に刺鍼して効あるや
- 六、禁忌すべき部位及其理
- 七、鍼灸は如何なる痛に適するか
- 八、慢性及急性病とは如何なるものか。
- 九、肋膜炎の原因症候及治療
- 十、心臟の位置

十一、胸腹内の臓器の名稱

東京鍼灸術試験問題

明治四十一年十二月三日舉行

- 一、唾液腺の數及各稱並に其位置
- 二、齒の數及區別並に作用
- 三、唾液の化學的成分並に作用
- 四、消化器の經路
- 五、胃及腸の區別
- 六、胃と十二指腸との境界部
- 七、胃底の部位
- 八、盲腸の部位
- 九、胃液の化學的成分並に其作用

- 十、食道と胃の境界
- 十一、胃の運動
- 十二、鍼灸の消毒法
- 十三、消毒藥の名稱

大阪府

明治四十一年一月舉行問題

- 一、上肢骨の數及各稱
- 二、肋骨の數
- 三、心臟の所在及其作用
- 四、動脈に打鍼の日否
- 五、脾臓の所在
- 六、内臓の名稱及其效用

大阪府

明治四十一年二月舉行問題

- 一、鍼を消毒する効用及消毒藥品名並に其溶解法
- 二、人體に於ける血液循環作用
- 三、何故に人は呼吸するや
- 四、心臟の所在並に効用
- 五、施鍼を忌避すべき部位
- 六、内臓の名稱並に其所在

- 七、鍼を禁じたる部位
- 八、消毒法

大阪府

明治四十一年三月舉行問題

- 一、胃の所在及効用
- 二、腸の形状及効用
- 三、皮膚の生理的作用
- 四、唾液の効用
- 五、消毒方法及藥劑製法

大阪府

明治四十一年四月舉行問題

- 一、淋巴とは何ぞ及効用
- 二、皮膚より骨に至る間に於て刺鍼上如何

なる部分を障害するか

- 三、爪の効用
- 四、神経の中樞とは如何
- 五、體温の起る生理的作用
- 六、鍼の筋肉中に折れ込みたる際に於ける身體に及ぼす障害
- 七、鍼の消毒方法
- 八、肋骨の數

大阪府

明治四十二年五月舉行問題

- 一、呼吸の作用
- 二、動脈に刺鍼の可否

三、脈搏の原因及其大人小兒に於ける比例

- 四、尿と汗との分泌に就て
- 五、消毒の方法及其目的
- 六、血液は如何なるものか
- 七、口腔及齒牙に就て
- 八、唾液の効用
- 九、聴器の構造
- 十、肝臓の位置形状及作用
- 十一、神経の種類及作用

大阪府

明治四十一年六月舉行問題

- 一、知覺神經に刺鍼を與ふる時は如何なる

變化を呈するや

- 二、睡眠とは何ぞや及肺胃等は休息するものなりや
- 三、淋巴腺とは如何及其作用
- 四、胸部の構造
- 五、扁桃腺とは如何
- 六、膽汁の生理的作用

大阪府

明治四十一年七月舉行問題

- 一、臍とは何ぞや
- 二、迷走神経の分布並に作用
- 三、眼の造構及物體明視の理由

- 四、舌の構造及味覺作用
- 五、發汗作用
- 六、手指消毒法
- 七、創傷化膿作用とは何ぞ
- 八、前搏骨とは如何

### 大阪府鍼灸術試験

明治四十一年九月舉行問題

- 一、咀嚼筋名稱及び作用
- 二、胃痙攣の定義及び鍼治法
- 三、肺動脈
- 四、神經の作用及び知覺
- 五、胸筋の名稱及び作用

- 六、涙腺及び涙液
- 七、座骨神經の起始及び分布
- 八、遺傳症と傳染病との區別
- 九、鍼治の原理
- 十、灸痕の生ずる理由

### 大阪府鍼灸術試験

明治四十一年十月書行問題

- 一、腸管の區別及び作用
- 二、肺臟の位置形狀及び作用
- 三、唾腺の所在、排泄口及び唾液の作用
- 四、腎臟の位置形狀及び作用
- 五、膀胱に就て

- 六、三叉神經の分布及び其作用
- 七、脊髄神經の數及び區別
- 八、腦神經に就て
- 九、鍼治の際注意すべき事項
- 十、消毒用アルコール

### 京 都 府

明治四十一年五月舉行問題

- 一、體幹骨の各名稱及其數を記せ
- 二、直腸筋の位置
- 三、動脈管の作用
- 四、體温に就て
- 五、鍼響に就て

- 六、鍼の消毒方法
- 七、誘導作用とは如何
- 八、禁忌の重なるものを記せ
- 九、消毒用石炭酸水の倍量
- 十、營業上注意すべき要點如何

### 京 都 府

明治四十一年十二月舉行問題

- 一、呼吸器の名稱及其位置
- 二、腓腸筋の起止如何
- 三、神經は如何なる用をなすや
- 四、各自使用せんとする鍼の種類を掲げ
- 五、各自實施せんとする灸の種類其方法を

記せ

- 六、刺戟の法を記せ
- 七、灸は多く如何なる病に適應するや
- 八、鍼灸施術時の注意事項を記せ
- 九、法定傳染病の種類は何々なるや
- 十、營業上心得べき法規の二三を記せ

### 東京鍼灸術試験問題

明治四十一年九月舉行問題

- 一、胸骨の位置形状及其關節
- 二、胸腔内の臓器
- 三、肺臓の位置及葉數の區別
- 四、脊椎骨の數及其名稱

五、骨盤とは如何

- 六、下肢骨の數及骨の名稱
- 七、腦神經の數及名稱
- 八、食物の消化作用
- 九、消化液分泌の名稱
- 十、唾液の必用なる理由
- 十一、皮膚の生理的作用
- 十二、脊髄神經とは如何
- 十三、消毒藥の名稱及其消毒の理由
- 十四、鍼は何れの部分にも可なるや
- 十五、誘導作用とは如何

### 京都府

明治四十一年七月舉行問題

十、疾病の種類に關し營業注意すべき要點

### 大阪府

明治四十二年二月舉行問題

- 一、上肢骨の名稱及其數
- 二、胸筋の名稱及起止點
- 三、皮脂の作生に就て
- 四、人の生理的體温は如何なる作用により發するや
- 五、鍼の選擇及使用の方法
- 六、交感神經に刺戟せば如何なる作用を起すや
- 七、各自の專用する灸の種類及用法
- 八、頭痛患者に點灸を行ふときは如何なる注意ありや又施術の局所は如何
- 九、各自の常に行ふ消毒の種類及使用の方法

- 一、心臟の構造及機能
- 二、胃の位置形状及作用
- 三、筋の種類及作用
- 四、皮膚の構造及機能
- 五、頭部の諸器官
- 六、眼球
- 七、齒牙
- 八、骨及關節の種類構造
- 九、細菌とは何ぞや

十、消毒に就て

大 阪 府

明治四十二年三月舉行問題

- 一、鍼治を行ふ際の注意
- 二、延髄
- 三、鍼治の方法
- 四、神経纖維
- 五、胸部内臓
- 六、胃病の刺鍼部位及其目的

大 阪 府

明治四十二年四月舉行問題

- 一、骨盤とは如何なる骨にて構成するや
- 二、肝臓の位置形状其他に就て説明すべし
- 三、心臓の作用
- 四、毛髪的作用
- 五、婦人麻疹(麻疹)道炎(の灸治法)
- 六、左顔麻痺の灸治法

栃木縣鍼灸術試験問題

年 月 不 詳

- 一、喉頭の構造及男女聲音高低の理由
- 二、脳及脊髄神経
- 三、消毒薬及消毒方法
- 四、鍼治の原理

- 一、消毒薬の種類製法
- 二、鍼治の目的
- 三、鍼治の方法
- 四、神経纖維の構造
- 五、下腿神経の分布
- 六、胃の位置及作用

大 阪 府

明治四十三年五月舉行問題

- 一、胃及脾臓
- 二、淋巴及乳糜
- 三、心臓及肺臓
- 四、腎臓及膀胱

栃 木 縣

明治四十三年十一月

- 一、呼吸器管は如何なる部位なるや
- 二、腎臓の機能
- 三、灸治不可の場合を問ふ
- 四、唾液の作用
- 五、胃の位置及形状
- 六、脊柱に沿へる穴の名稱

大 阪 府

明治四十二年七月舉行問題

- 一、神経纖維とは何ぞや
- 二、心動及心音

- 三、鍼療の目的
- 四、鍼刺の作用
- 五、實地施術

大阪府

明治四十三年八月舉行問題

- 一、呼吸運動
- 二、空氣中の酸素及窒素の効用
- 三、消化作用
- 四、鍼治の作用
- 五、實地刺鍼

大阪府

明治四十二年九月舉行問題

- 消毒作用の差異
- 六、實地刺鍼

大阪府鍼灸術試験問題

明治四十二年十一月舉行

- 一、腹部内臓の位置及交互の關係
- 二、膝液の作用
- 三、肋間神経痛の鍼治法
- 四、實地

大阪府

明治四十二年十二月舉行問題

- 一、扁桃腺に就て

- 一、消毒薬並に消毒法
- 二、腕骨の名稱及联接
- 三、呼吸の運動
- 四、齒痛鍼治法
- 五、太陽叢の位置並に鍼治上の關係

大阪府

明治四十二年十月舉行問題

- 一、横随膜の位置及作用
- 二、上脾筋の名稱
- 三、坐骨神経の所在及刺鍼點
- 四、顔面神経の摩痺及刺鍼點
- 五、普通アルコールと無水アルコールとの

- 二、咀嚼筋
- 二、唾液腺並に唾液の作用
- 四、神経の種類構造並に其終器

京都府

明治四十二年六月舉行問題

- 一、肋骨の區別及其起始點を問ふ
- 二、上膊筋の起始如何及其作用
- 三、血液循環の作用如何及循環方法
- 四、神経とは何ぞや
- 五、施術上に於ける消毒の方法に就て
- 六、頭痛を訴ふる患者の點灸鍼治は如何なる部位なるや



- 七、妊娠中胃痛を發したる患者には如何なる局部に鍼灸治療を施すや
- 八、鍼灸忌禁の部位を記せ
- 九、各自實施する鍼灸の種類を擧げ
- 十、八種傳染病中の患者と認めたる時如何なる處置をなすや

京都府鍼灸術試験

明治四十二年十二月

- 一、關節とは如何
- 二、心臟の位置形狀
- 三、節の感覺
- 四、人體の生理温

二十二日問題

- 一、上肢及下肢に分布する重なる神經の名稱及び經路
  - 二、消化器官の名稱及び其位置
  - 三、消化の生理的作用
  - 四、延髓の機能
- 二十三日問題
- 一、腹腔内に存する臟器の名稱及び其位置
  - 二、上肢及び下肢に分布する重なる血管名稱及び其經路
  - 三、體温發生の理由及び調節機能
  - 四、呼吸の目的

- 五、各自使用せんとする鍼灸の種類及用法
- 六、虎列拉の症狀
- 七、大白齒痛に對する鍼灸部位
- 八、熱性下痢症及び下腹痛の患者に對する鍼灸法
- 九、法定傳染病中消化器傳染病の名稱
- 十、各自營業上注意すべき法規二三を列擧せよ

東京府鍼灸術試験

明治四十三年三月二十二日

三兩日舉行

東京府鍼灸術試験

明治四十三年四月舉行

- 四月二十七日問題
- 一、腋窩を構成する諸筋の名稱位置並に之を通過する血管神經
  - 二、頭蓋骨の名稱總合の種類及び所在
  - 三、食物中必要なる營養品は何々にして平均一日其幾何量を要するや
  - 四、消化液の種類及其消化作用
  - 五、鍼の消毒法禁鍼の部位及び場合
  - 六、坐骨神經痛の原因及び症候

東京

明治四十三年舉行

五月十六日問題

- 一、胸廓に構成する骨及び筋肉の名稱
- 二、身體中に分布する主なる動脈の名稱及び其經過
- 三、血液循環の概況
- 四、呼吸の種類及其生理的作用
- 五、刺鍼の際 施術者は如何なる事を注意すべきか
- 六、灸點の場所化膿したるときの處置如何

七、肋間神經痛及症候

東京

明治四十三年五月三十一日舉行

- 一、心臟の位置形狀及び構造
- 二、三叉神經の起始及び分布區域
- 三、腎臟の機能
- 四、體溫發生理由及び調節機能
- 五、脚氣の症候
- 六、消毒方法及び刺鍼禁忌の部位及び場合

東京府鍼灸術試驗

明治四十三年六月十三日舉行

- 一、口腔の形狀及構成する諸骨
- 二、坐骨神經の起始經過及技別
- 三、胃の消化作用
- 四、鳥腔の機能
- 五、胃痙攣の症候
- 六、消毒藥の種類（重なるもの二三種）
- 七、鍼術の實地

東京

明治四十三年七月八日舉行

- 一、横膈膜の位置及其裂孔を通過する血管及神經の名稱
- 二、ブーバルト氏靱帶下を通ずる血管及

神經の名稱

- 一、嗜好品の効用及其種類
- 二、飲用したる水分は何處より排泄せらる乎
- 三、鍼の効用及禁忌の部位其場合
- 四、神經麻痺の症候及處置法
- 五、鍼術の實地

東京府鍼灸術試驗

明治四十三年十二月一日舉行

- 一、骨盤の形狀及び之を構成する諸骨の名稱
- 二、三叉神經の起始及び支別

- 三、呼吸の目的
- 四、消化液の種類
- 五、脚氣の處置法
- 六、實地試験

東京府鍼灸術試験

明治四十三年十二月廿日舉行

- 一、肘關節窩の構成する筋の名稱及び其部を通過する血管
- 二、唾液を排泄する腺の名稱及び排泄管の開口部位
- 三、小循環と大循環との區別及其血液の差

- 四、音聲は如何にして發するや其理由及び男女の差異は如何
- 五、痲痛の治療法
- 六、實地試験

大阪府

明治四十三年一月舉行問題

- 一、消化機能
- 二、血液循環の理併に胎兒血行
- 三、胸廓を構成する骨の名稱及聯接
- 四、脊柱各椎の形態上の差異
- 五、消毒藥の種類及鍼術實地

大阪府鍼灸術試験問題

明治四十三年二月廿五日舉行

- 一、横隔膜
- 二、腎臟
- 三、上膊筋
- 四、神經刺鍼
- 五、鍼療を行ふべき疾患は如何
- 六、刺鍼の禁忌の部位
- 七、實地刺鍼

大阪府鍼灸術試験問題

明治四十三年三月廿五日舉行

- 一、消化とは何ぞや
  - 二、上膊筋の名稱
  - 三、内臟の名稱及作用
  - 四、頭部の刺鍼に就て
  - 五、顔面神經麻痺とは
  - 六、交感神經の位置及刺鍼の部位
  - 七、實地
- 大阪府鍼灸術試験問題
- 明治四十三年五月廿七日舉行
- 一、消化作用
  - 二、鍼治の適應症
  - 三、齒痛の鍼治法

四、實地

大阪府鍼灸試験

明治四十三年六月廿八日舉行

- 一、軟骨の所在、性状、效用
- 二、汗腺の所在、及び分泌作用
- 三、三叉神経の分布區域並に其神経痛
- 四、炎症性疼痛と神経痛との區別

大阪府鍼灸術試験

明治四十三年七月廿九日舉行

- 一、皮膚の構造及作用
- 二、腹筋

三、皮下静脈

四、肋間神経痛

五、子宮痙攣の鍼灸法

六、消毒の目的

七、實地

大阪府鍼灸術試験

明治四十三年九月八日舉行

- 一、胸廓の構成及び肋間神経痛
- 二、鼠蹊管
- 三、腹部内臓及び疝痛
- 四、前膊神経
- 五、血液及び淋巴

六、實地

大阪府鍼灸術試験

明治四十三年十二月廿四日舉行

- 一、胸腹内臓の構造機能及鍼治的疾并並に鍼治點

- 二、鍼治上の注意
- 三、鍼治の適應症
- 四、三叉神経の鍼治點
- 五、實地

京都府鍼灸試験

明治四十三年六月二十八日舉行

- 一、靱帯とは如何及び其作用
- 二、筋肉とは如何
- 三、心臓の作用
- 四、血液の鮮紅色なると暗紅色なるものと理由
- 五、浮腫性にして心悸亢進したる脚氣患者に施術を依頼されたる際の處置
- 六、中風患者に對する鍼灸點の部位
- 七、八種の傳染病の鑑別
- 八、營業上の法規
- 九、消毒藥の名稱及溶角量を示せ
- 十、自己の使用せる鍼灸の種類並に其用法を示せ

### 佐賀縣鍼灸術試験

明治四十三年六月二十七日舉行

- 一、胃の位置
- 二、健康大人の脈膊體温 呼吸數
- 三、鍼の効用及消毒法
- 四、灸の適應症
- 五、神經筋の症候
- 六、手の太陰肺經(經穴)の名稱
- 七、脚氣灸治の部位

### 佐賀縣鍼灸術試験

明治四十三年八月三十一日舉行

枝別、神經は何より成立するや、迷走神經、  
 大腦延髓脊髓及び交感神經の機能、唾液の  
 分泌腺及び効用、胃液に就て、胆汁の効用  
 血液循環及び營養分の吸収に就て、鍼の  
 効ある理由、齒痛の刺鍼點、消毒の方法其  
 理由及び消毒藥の鑑定、實地

### 山形縣鍼灸術問題

明治四十三年(月不詳)舉行

- 一、心臟の部位形狀器能
- 一、胃の部位及作用
- 一、食物消化運動及腸に於ける攝取作用

- 一、肋骨の所在及其數
- 二、呼吸器とは如何
- 三、前膊の主なる動脈の名稱
- 四、人體の血量(大人及初兒)
- 五、刺鍼の際注意すべき二三の事項
- 六、胃痙攣に對する鍼治の可否
- 七、灸の種類及適應症
- 八、施灸部の化膿は如何なる場合に起るや

### 廣島縣鍼灸術試験

明治四十三年十二月舉行

關節に就て、膈に就て、肺臟下界に隣接せ  
 る臟器の名稱、總頸動脈及び外頸動脈の

- 一、動脈及靜脈とは何ぞや
- 一、腎臟及製尿作用
- 一、脚氣病症候治療法
- 一、リウマチスと打傷診斷
- 一、點灸の方法及灸治の理論
- 一、一般禁灸の場合
- 一、上肢には禁灸の個所ありや
- 一、灸治法により治癒すべき疾病其他數件

### 長崎縣鍼灸術試験問題

明治四十三年五月六日舉行

- 一、呼吸器の名稱位置及作用
- 二、消化器の名稱位置及作用並に構造

- 三、血行器の名稱及心臟の作用
- 四、泌尿器の名稱位置作用
- 五、刺鍼に適する疾病
- 六、臍管は何れに開口するや
- 七、臍部より胃底間の分寸を問ふ
- 八、胃痙攣に於ける刺鍼の部位を問ふ
- 九、子宮痙攣の刺鍼點並に其目的如何
- 十、腸胃病刺鍼法
- 十一、關節痲痺質斯の療法
- 十二、禁鍼の部位如何
- 十三、鍼の効用
- 十四、鍼の消毒方法

静岡縣

明治四十三年(月不詳)

- 一、腎臓の位置及形状
- 二、腸の名稱を列記せよ
- 三、心臟の作用
- 四、膀胱の作用
- 五、胃病の鍼は如何になすや
- 六、妊婦に禁すべき灸穴の名稱

東京府鍼灸術試験

明治四十四年一月廿四日舉行

- 一、汗の分泌作用

- 二、血液循環の概況
- 三、眼球の位置形状及其構成
- 四、鎖骨上窩を構成する骨及筋の名稱
- 五、坐骨神經痛の症候及處置法
- 六、實地試験

東京鍼灸術試験問題

明治四十四年九月五日舉行

- 一、眼窩を構成する骨の名稱
- 二、坐骨神經の經過及び枝別
- 三、消化液の種類及び其作用
- 四、心臟の機能
- 五、胃痙攣に對する所置法

六、實地

九月十日舉行

- 一、眼球を構成するものゝ名稱
- 二、手指を屈曲する筋の名稱
- 三、腎臓の生理的作用
- 四、鼻腔の生理的作用
- 五、消毒藥の名稱及び消毒の方法

東京

明治四十四年十月舉行

- 十月三日
- 一、血液の生理的作用
  - 二、汗分泌の機能

- 三、口腔を構成する諸骨
- 四、解剖學上泌尿生殖器に屬する者の名稱

- 五、消毒藥の名稱及び消毒方法
- 六、刺鍼禁忌の部位及び場合
- 七、實地

十月十八日(合計十五名)

- 一、鼻腔を構成する諸骨の名稱
- 二、腦神經の名稱
- 三、音響を感ずる理由
- 四、消化液の種類
- 五、消毒藥の名稱及び消毒の方法
- 六、刺鍼禁忌の部位及び場合

所在

- 二、坐骨神經の經過及其技別
- 三、胃の消化作用
- 四、血液循環の概況
- 五、坐骨神經痛の處置
- 六、實地
- 十一月廿一日
- 一、頭蓋骨の名稱
- 二、眼球の構成
- 三、動脈血と靜脈血との區別
- 四、唾液の集成及生理的作用
- 五、消毒藥の名稱及消毒方法
- 六、實地

七、實地

十月二十五日

- 一、上肢骨に屬するもの名稱及其部位
- 二、心臟の部位形狀及各部の名稱
- 三、神經の機能上に於ける區別
- 四、血液は如何なるものより成立するや
- 五、胃の痙攣に對する處置
- 六、實地

東京

明治四十四年十一月舉行

- 十一月一日
- 一、呼吸器系統に屬するもの名稱及其

大阪府

明治四十四年一月卅一日舉行

- 一、胃其神經痛に對する鍼治法
- 二、三叉神經の起始分布並に其神經痛の鍼治點
- 三、子宮の構造其分布神經並に痙攣の鍼治法
- 四、鍼治を行ふべき疾病の種類
- 五、其他

大阪府鍼灸術試驗

明治四十四年六月廿三日舉行

- 一、軀幹骨の名稱及び聯接
- 二、肝臓の位置大きさ並に其作用  
以上午前の分にして但し三時間を與へらる。
- 三、交感神経に對する刺鍼の部位
- 四、灸治を避くべき主なる疾病を擧げよ
- 五、アルコホルを用ひて消毒する方法を記せ、以上午後の分なり

### 大阪府鍼灸術試験

明治四十四年十二月十三日舉行

- 一、泌尿器の名稱
- 二、呼吸の必要並に小兒成人の呼吸數

- 三、上膊に於ける神経の起始、上膊神経に對する鍼治の適應症及び鍼治點
- 四、腹痛に對する灸治點及び其作用
- 五、自己の使用する消毒藥の名稱及び之を撰める理由

### 京都府鍼灸術試験問題

明治四十四年十二月廿日舉行

- 一、肋骨の位置及數を記せ
- 二、上肢に於ける外部の名稱
- 三、五感とは如何なるものなるや
- 四、肺は如何なる用をなすや
- 五、患者あり左の乳房痛み下痢を發したる

時は何處に點灸するや

- 六、禁忌部位の二三を擧げよ
- 七、自己の使用せんとする灸の種類及方法
- 八、術者患部及用具の消毒法如何
- 九、營業上の心得

### 大分縣鍼灸術試験問題

明治四十四年五月舉行

神經に就て、皮膚構造及作用、僂麻質斯、肺炎、胃痙攣、膀胱痙攣、肋膜炎、腹膜炎、疾患の症狀及鍼灸治法  
鍼の刺方及禁忌部位禁忌の場合、消毒法、鍼を施す時の一般注意、鍼灸術の効ある疾

病

### 大分縣鍼灸術試験問題

明治四十四年十月舉行

- 一、心臟及胃の位置構造
- 二、呼吸の作用
- 三、關節に發する疾病及療法
- 四、三叉神経痛の症狀及鍼治法
- 五、心臟及胃の作用
- 六、齒痛の療法
- 七、鍼の作用及刺方は鍼治を施す時の心得

佐賀縣

明治四十四年六月舉行



- 一、脊椎骨の數及び其區別
- 二、腋窩とは如何
- 三、胃の位置形状
- 四、前膊に於ける主なる動脈
- 五、施術を避くべき部位
- 六、神経痛に對する刺鍼の目的
- 七、灸の適應症
- 八、坐骨神經に對する灸治點

佐賀縣鍼灸術試驗問題

明治四十四年十一月廿七日舉行

- 一、肋骨位置及數
- 二、體温及脈膊

三、施鍼時に注意すべき事項

- 四、刺鍼を避く可き部位
  - 五、鍼の消毒藥名及溶解法
  - 六、胃瘧に對する處置
- 十二月廿五日
- 一、齒牙の總數及名稱
  - 二、心臟の位置及作用
  - 三、手指の消毒法
  - 四、鍼治の作用及適應症
  - 五、灸治の効用及適應症
  - 六、鍼の消毒藥名及溶解法

熊本縣鍼灸術試驗問題

明治四十四年五月舉行

縣廳内の分

- 一、鍼治の際術者の手鍼及術施者の部位は如何にして消毒すべきか
  - 二、消毒藥は何を用ひるか又其溶解法
  - 三、鍼術(灸)術を施すべからざる場合如何
  - 四、鍼灸の効ある所以を問ふ
  - 五、心臟の部位形状
  - 六、神經の種類
  - 七、體温は何度なるや
  - 八、筋は如何なるものなるや
- 八代郡の分
- 一、脊椎骨の數位置形状區別名稱

二、腎臟の位置形状

- 三、血液循環の経路及區別
  - 四、健康大人の脈膊體温呼吸數
  - 五、消毒方法
  - 六、術者被術者は何れをさきに消毒すべきか及理由
  - 七、鍼灸を避くべき部位及場合
  - 八、炎症に鍼灸の可否及理由
- 天草郡の分
- 一、胃の位置形状
  - 二、心臟の位置形状
  - 三、肝臟の位置形状
  - 四、血液循環の経路

- 五、鍼の種類を挙げよ
- 六、鍼の効用
- 七、術者被術者の消毒法
- 八、消毒薬の種類及溶解法

熊本縣鍼灸術試験

明治四十四年十一月舉行

- 一、骨とは如何なるものなるや
- 二、胸廓を構成する骨の名稱及び其联接
- 三、膊動の起る理由及び血行は如何
- 四、胃痛に對する刺鍼法
- 五、座骨神經に對する灸治法
- 六、消毒の方法

- 七、消毒薬は何を用ゆるか及其溶解法
- 八、鍼灸の効ある理由
- 九、鍼灸を施すべからざる場合

福岡縣鍼灸術試験問題

明治四十四年十二月十八日舉行

- 一、脊椎骨の種類及其數
- 二、肝臓の部位及形狀
- 三、血液の造成は生體に於て何れの部に擔任するや
- 四、血液は何の用をなすや
- 五、座骨神經痛に對する鍼灸治點
- 六、鍼灸術の治病上効を奏する理由

同二十日 小倉市にて舉行

- 一、胸廓を構成する骨及胸廓内臓器の名稱
- 二、腎臓の部位及形狀
- 三、呼吸の起る理由の説明
- 四、膽汁は如何なる働きをなすや
- 五、鍼灸術適應症は何々病か
- 六、妊婦に鍼灸を禁ずる部位

長崎縣鍼灸術試験問題

明治四十四年十月十一日舉行

- 一、腹部内臓器の名稱
- 二、神經とは如何なるものなるや
- 三、動脈血と静脈血との相違する點
- 四、心臟は如何なる働きをなすや

- 一、胸骨の位置形狀並に联接
- 二、骨盤の位置形狀之を構成する骨名
- 三、肺臓に就て
- 四、心臟の位置形狀
- 五、職業により發する病名
- 六、脚氣の症候

- 七、遺傳病とは如何なる病か
- 八、攝取したる食物は何處を通過するや各部の名稱
- 九、腸に他より來る消化液の名稱並に其効用
- 十、鍼治の適應症
- 十一、禁忌症
- 十二、消毒藥の名稱
- 十三、消毒の順序
- 十四、皮膚の効用

德島縣鍼灸術試驗問題

明治四十四年十月舉行

- 一、鍼術の際注意すべき事項を記せ
- 二、消毒藥の溶解法及使用法を記せ
- 三、齒痛に對する鍼治法を記せ
- 四、下腿に分布せる神經の名稱
- 五、禁鍼の主なる部位を記せ

德島縣鍼灸術試驗

明治四十四年十一月十四日舉行

- 一、酒精と無水酒精の消毒上に於ける功能
- 二、灸點部の癢痕は如何なる理に由るや
- 三、齒痛に對する灸治法を記せ
- 四、消化液の名稱並に各自の消化作用
- 五、禁灸の部位

和歌山縣

明治四十四年一月舉行

- 一、筋肉の形狀及び性質
- 二、横隔膜とは如何
- 三、皮膚の効用
- 四、人は何故に呼吸せざるを得ざるや
- 五、刺鍼の禁する部位及び理由
- 六、消毒藥の種類及び用法

和歌山縣鍼灸術試驗問題

明治四十四年十二月十八日舉行

- 一、胃の位置形狀並に構造及び分布しあ

る血管神經は如何

- 二、人は何故に呼吸せざるべからざるか
  - 三、上膊に於ける筋と血管神經の關係
  - 四、下肢神經痛に於ける刺鍼點及び灸點を明細に記せよ
  - 五、鳩尾、顴竅、承扶の解剖的位置及び禁鍼禁灸を區別せよ
  - 六、鍼術及び灸術の禁忌症を擧げよ
  - 七、消毒とは如何
  - 八、消毒藥の名稱及び用法
  - 九、鍼術灸術消毒上の注意
  - 十、實地
- 齒痛の刺鍼及び灸點の部位名稱及び其部に

何神經分布しあるやの質問あり然して實地をなす。

### 東京按摩術試験問題

明治四十五年七月十一日舉行

- 第一問 前膊前面にある筋の名稱
- 第二問 消化液の種類及び其名稱
- 第三問 傳染病に接したる時の所置

### 東京鍼灸各術試験

明治四十五年鍼灸術試験問題

- 七月四日
- 一、消毒を行ふ理由

- 二、鍼器及施術者手指の消毒方法
- 三、上肢下肢に分布する主なる神經の名稱及其經路
- 四、唾液を排泄する腺の名稱及其生理的作用
- 五、四肢に鍼を刺入するには如何なる注意が必要なるや
- 六、顔面に於ける禁穴の數、位置及名稱を述べよ
- 七、實地
- 七月五日
- 一、上肢に分布する動脈の名稱及其經路
- 二、血液循環の理由

- 三、消毒藥の種類
- 四、消毒を行ふに當り注意すべき事項
- 五、雲門、璇璣の位置及其經名を述べよ
- 六、鍼を刺入する時に押手の作用に付述べよ
- 七、實地
- 七月八日
- 一、消毒藥の種類
- 二、消毒を行ふに當り注意すべき事項
- 三、胸筋に屬する筋の名稱
- 四、呼吸時に於ける鼻腔の機能
- 五、華蓋及中府の分寸に付述べよ
- 六、腹部に於ける禁穴の名稱

### 大阪府

明治四十五年六月舉行

- 一、男子腹部内臟の名稱及其位置
- 二、呼吸の必要
- 三、白條に於ける禁穴の並に瘧門風府の

各解剖的部位

四、鍼治法上の誘導法と反射作用とは如何  
其一例を記せ

五、灸の一般効用を記せ

六、胃病に對する灸の經穴及其解剖的部位

七、消毒の効用

八、如何なるアルコールを消毒薬として使  
用するや及其使用法は如何

右の内鍼治一科は第五問第六問なく灸治一  
科のものは第三問第四問なし

二十六日

一、神経性心悸亢進症に對す實地施術

一、充血性頭痛に對する實地施術

一、三里、絶骨、曲池實地點灸  
一、腰痛に對する灸點に付實地點灸  
右何も人體を提供して刺鍼並に灸點を示し  
む

愛知縣

明治四十五年五月舉行

鍼術試験

一、脊椎骨の構造及び諸骨の联接

二、座骨神經の分布情體

三、麻痺及痙攣に對する鍼治の作用

四、頭部及顔面に於ける禁鍼及名稱に於  
ける部位及穴

五、消毒の目的

六、消毒薬の種類及使用法

七、實地

八、實地

灸術試験

一、脊椎骨の構造及諸骨の联接

二、座骨神經の分布情體

三、施灸適應症を示せ

四、下肢に於ける禁灸穴の名稱及部位を示  
せ

五、消毒の目的

六、消毒薬の種類及使用法

七、實地

八、實地

按摩術試験

一、胃の位置及形状

二、心臟の機能

三、按摩術に手技幾種ありや

四、按摩術に禁すべき疾患

五、消毒の目的

六、消毒薬の種類及使用法

七、實地

八、實地

奈良懸鍼灸術試験問題

明治四十五年五月廿八日舉行

同警察部にて施行

鍼灸の分

- 一、脊髄より出する神経は何對あるや
- 二、呼吸器とは如何其一般生理的作用を問ふ

三、前膊の橈骨側及尺骨側筋間を通過する

動脈及神経の名稱を問ふ

- 一、鍼灸治を禁忌すべき疾病及鍼灸施行上の注意

二、腹部正中にある鍼灸術の經穴禁穴の名稱位置並に坐骨神経痛に對する經穴の名稱

- 一、消毒とは如何なることか

二、消毒薬品の種類及鍼の消毒方法（灸の分は手の消毒方法に代る）

按摩術の分

- 一、按摩術の手法は幾種類あるや及輕擦法に就て
- 二、頭部の按摩法及一般按摩を施す時間解剖生理の分は鍼灸術の分と同じ

大分縣鍼灸試験問題

明治四十五年五月試験施行

其問題左の如し

- 一、骨盤の部位並に之を構成する骨名及連接

二、坐骨孔を通する血管神経の名稱分布の箇所

三、一片の肉を攝食すれば如何なる作用を受けし消化管を去るや

四、鍼治を避くべき病症附たり體中何れの部にてても直鍼に刺すや

五、十四經の穴歌と禁鍼穴を

六、微菌とは如何なるもの及び微菌に因て起る劇しき病を問ふ

七、消毒の目的消毒液の種類、稀釋度

八、實地

熊本縣鍼灸術試験問題

明治四十五年五月第一回舉行

一、肺臟の位置形狀構造機能

一、三叉神経の分布

一、消毒薬の種類及用法

一、消毒の必要なる理由

一、刺鍼法、期門、日月、幽門、天柱を問ふ

一、灸點法四花患門、六穴を問ふ

一、經穴隔俞肝俞腎俞章門膻鼻承山を問ふ

一、禁穴委中淵液脊中を問ふ

一、實地

一、鍼術、器物及人體を提供して刺鍼を行はしむ

一、灸術、人體を提供して各部位を提定し

灸點を施さしむ

### 島根縣鍼灸術試驗問題

明治四十五年四月舉行

#### 鍼術試驗問題

- 一、脊椎各部の名稱及其數を記せよ
- 二、皮膚の機能を記せよ
- 三、鍼に長短大小の種類ある理由如何
- 四、胃瘧一名胃神經痛に對する刺鍼點の位置名稱並に其醫治的作用の概要を記せよ
- 五、鍼科消毒の必要なる學理を問ふ
- 六、消毒藥の名稱及び稀釋度

七、實地

#### 灸術試驗問題

- 一、骨盤の構造
- 二、淋巴管の機能
- 三、灸治の作用及び禁忌の部位
- 四、脚氣の症に對する灸點部位
- 五、消毒の効力
- 六、無水アルコールと普通アルコールの消毒効力の差異を問ふ

### 東京府鍼灸術試驗

大正元年試驗問題

十月十八日

十月十八日

- 一、五臓器の名稱
- 二、胃の消化作用
- 三、消毒藥の種類
- 四、消毒の方法
- 五、肩井及び五里の經名部位
- 六、腹痛に鍼を施す時の注意
- 七、腰痛に施す可き灸點の場所

#### 鍼灸術の實地

十月二十二日

- 一、腦神經の名稱
- 二、血液の循環理由
- 三、消毒藥の種類

四、同方法

- 五、天突の部位及び足の三里に分布する神經の名稱
- 六、下顎齒痛に施す可き刺鍼點
- 七、坐骨神經痛に施す可き灸點の個所、鍼灸術の實地

### 大阪府鍼灸術試驗

大正元年九月舉行

第一問、左の器官の部位を記せ

- 一、鎖骨、二腎臟、三太陽叢
- 第二問 血球の種類及其作用
- 第三問 鍼治に於ける制止並興奮法とは如何

何其一例を示せ

第四問 官能的月經閉止に對する解剖的刺

鍼點並穴名

第五問 神経系病にして灸の適應症を列記

せよ

第六問 疝痛の主兆及灸治點の解剖部位

と穴名を説明せよ

第七問 石炭酸の性状及消毒に要する稀

釋度を記せ

第八問 施術部消毒方法如何

### 京都鍼灸術試驗問題

大正元年十一月舉行

一、脊椎骨の名稱及各部骨の個數を掲げ

二、大腿に於ける貴要血管及神經の名稱

並に其經路を記せ

三、胃瘧瘵症に應用する穴名及其目的如何

四、心經の用穴及其禁穴を問ふ

五、消毒方法の種類を掲げ

六、術者、被術者に於ける消毒方法如何

實地問題

一、肩胛上肢の刺鍼

二、下肢の刺鍼

灸術

一問、二問、五問、六問は鍼と同じ

三、任脈穴を擧げよ

六、消毒藥の種類

七、實地の手術

灸術の分

一、脊椎骨の數及區別

二、關接運動とは如何

三、灸治の効用

四、禁灸の場所あるや

五、消毒法の意義

六、消毒藥の種類

按摩術の分

一、上肢骨の名稱

二、血液循環

三、肋骨神經痛の症候

四、督脈の禁穴名を擧げよ

灸實地

一、四花患門測度法

二、痔疾の主治點穴、以上

### 愛知縣鍼灸按摩術試驗問題

大正元年十月十九日舉行

鍼術の分

一、腹部臟器の位置

二、身體血液の量

三、折鍼時の所置方

四、炎症に鍼治の手術適否及理由

五、消毒法の意義



- 四、膝關節炎に對する按摩法
- 五、六は鍼灸に同じ

長崎縣鍼灸試驗問題

大正元年十二月舉行

鍼術の分

- 一、顏面骨の名稱並に其聯接を問ふ
- 二、肺臟の機能を問ふ
- 三、座骨神經痛の主なる刺鍼點及其の作用
- 四、鍼後按法の効用に就き記せ
- 五、鍼の消毒法
- 六、消毒藥の種類及其効用

灸術の分

- 一、脊柱の構造並に之と連接する骨の名稱
- 二、膽汁の作用
- 三、左の諸穴の解剖的位置を述べよ  
天柱、關元、合谷、志室
- 四、灸の効用に就き記せ
- 五、傳染病の疑ある者に接したる後の消毒方法
- 六、施術前後に於ける消毒心得

佐賀縣

大正元年九月

鍼術學說試驗問題

- 一、胸廓を構成する骨の名稱及其關接

は如何

- 二、心臓の機能は如何
- 三、刺鍼を避くべき部位を記せよ
- 四、神經痛に對する鍼治の作用を記せよ
- 五、鍼に消毒の必要なる理由を記せよ
- 六、石炭酸水は幾倍の稀薄のものを使用するや且其稀薄法を記せよ

灸術學說試驗問題

- 一、脊柱を構成する骨の數及び其區別は如何
- 二、胃の消化作用は如何
- 三、灸治の作用及施灸を避くべき部位を記せよ

- 四、灸治の適應症を記せよ
  - 五、消毒の目的は如何
  - 六、リゾール溶液は幾倍の稀薄のものを使用するや且其の稀薄法を記せよ
- 按摩術學說試驗問題
- 一、前膊に於ける主なる屈筋の名稱を記せよ
  - 二、肺臟の作用を記せよ
  - 三、按摩術の手法に幾種あるや
  - 四、輕擦法の作用如何
  - 五、手指の消毒を記せよ
  - 六、傳染病患者に接したる時の處置は如何

福岡縣鍼術試驗問題

大正元年久留米にて十月三日舉行

- 第一問 皮膚の機能
  - 第二問 顔面神経の分布區域並に之が麻痺に陥りし際に發現する症状
  - 第三問 鍼灸の人體に及ぼす作用を記せ
  - 第四問 頭部及腹部に於ける鍼の刺方及姿勢
  - 第五問 消毒法の種類及實地
- 同甲種按摩術試驗問題  
(十月三日施行)
- 第一問 關節の種類及其構造

大分縣

- 第二問 動脈と靜脈の區別
  - 第三問 手部按摩方式に就て記せ
  - 第四問 脚氣症に對する按摩法如何
  - 第五問 消毒法の履行を要する所以及實地
- 同乙種問題
- 第一問 靱帯の種類
  - 第二問 肺臟の位置及其働
  - 第三問 按摩の適應症
  - 第四問 傳染病に接したる時の所置
  - 第五問 消毒薬の主なるもの、名稱及實地

大正元年九月舉行

第一日問題

- 一、腎及副腎の位置形狀構造並に作用
- 二、頸部に於ける血管神経の名稱及分布區域
- 三、受胎胎兒各月の大きさ妊娠の徵候及妊婦に刺鍼の可否
- 四、淋巴液の生源性質及淋巴管の作用並に淋巴腺と微菌との關係に於て
- 五、仁腺經に備ふる穴名を擧げ且つ禁穴を示せ
- 六、上肢にて有用なるもの十穴を掲げて其處を按示せよ

七、消毒の目的消毒法消毒液の種類並に稀釋度

第二日問題

- 一、胸廓に屬したるもの(胸廓の位置及之を構成する骨名と骨數、胸廓の入口を通ずる器官の名稱、胸廓に分布する血管神経の名稱、胸廓に位せる重要臟器の名稱と位置)
- 二、大腿部に於ける血管神経並に經過
- 三、呼吸の目的區別法式
- 四、血液循環と呼吸の關係

- 五、傳染病に接したる場合の處置如何
- 六、微菌の性状及消毒の必要なる所以
- 七、患者に於て若し消毒液の缺乏し居る場合は如何なる處置法を取るや普通使用する處の消毒薬名と稀釋度
- 八、大腸經に備ふる穴名を按せよ下肢に屬する禁灸穴の名稱を擧げて按せよ
- 九、實地 關節リュウマチスの療法腎臟炎に刺鍼するの可否、腦貧血の療法、消毒法

奈良縣鍼灸術及按摩術試驗

大正元年十月舉行

- 二、消毒薬品の種類名稱及稀釋の割合
- 鍼術の實地問題
  - 一、腸疝に對する施鍼
  - 二、取穴の方法
- 灸術の實地問題
  - 一、子宮痙攣に對する取穴
  - 二、八節の各名所並に其部位
- 右一々實地施鍼及び取穴せしめ世つ反問あり
- 同按摩術試驗問題 (晴盲共通)
  - 一、胸廓を構成する骨の名稱並に胸腔内臓の位置
  - 二、運動神經と知覺神經とは如何なる別有

第一科

- 一、胸廓を構成する骨の名稱並に胸腔内臓の位置
  - 二、運動神經と知覺神經とは如何なる別有や
  - 三、坐骨神經の起始及徑路を問ふ(右二科)
- 第二科
- 一、鍼治は如何なる効用を有するや
  - 二、胃痙攣に對する鍼治法如何(術の分)
  - 一、灸の種類及び其適應症を記せ
  - 二、肋間神經痛に對する灸治法如何(術の分)
- 第三科
- 一、消毒の必要なる所以を述べよ

- 三、關節の按摩法
- 四、按摩術の禁忌症
- 五、消毒の必要なる所以を述べよ
- 六、消毒薬品の種類名稱及其稀釋の割合

廣島縣灸鍼按摩術試驗問題

大正元年十月二十三日舉行

- 鍼灸術試驗問題
  - 第一問 前腹壁の構造
  - 第二問 胃の機能
  - 第三問 總頸動脈の部位並に其筋及神經との關係

第四問 胃痛に對する刺鍼法(鍼術)

胃痛に對する灸點法(灸術)

第五問 承扶、段門の位置

第六問 石炭酸の性状及其溶解法

第七問 消毒の目的

實地 鍼術(鍼術)灸術(灸術)

以上の内問題の下に括弧を附せらるるもの、  
外は鍼灸兩術の試験問題とす

按摩術試験問題(甲種)

第一問 膝關節の構成

第二問 血液循環

第三問 按摩の方式

第四問 腹部の按摩法

實地問題

七、腸疾患に對する刺鍼法

八、下肢疾患に對する主なる手術法

灸術の分

一、二、五、六は鍼術の分に同じ

三、胃病に對する六ツ灸

四、手の太陰肺經並に禁灸穴名

實地問題

七、四花の穴を求むる法

八、下肢三里の部位並に適應症を擧げよ

### 和歌山縣鍼灸按摩術試驗 問題

大正元年十一月舉行

第五問 消毒藥の種類及手指の消毒方法

第六問 消毒の目的

實地 按摩術

### 三重縣鍼灸術試驗問題

大正元年十月舉行

鍼術の分

一、坐骨神經の起始分布

二、腸の消化作用

三、腹痛に對し注意如何

四、手の太陰肺經並に禁灸穴名

五、消毒の目的

六、石炭酸の主成分並に溶解法

三、刺鍼の方向を説明し併せて體中折鍼の  
所置を記せ

四、偏頭痛に對する刺鍼點

五、主なる傳染病三種以上を擧げ其病毒所  
在地を説明せよ

六、皮膚消毒の方法

灸術學說の分

一、二、五、六は鍼に同じ

三、手の少陰心經の穴名を擧げ其中禁灸の  
解剖的部位を明かにせよ

四、脚氣に對する灸治法如何

鍼術の實地

一、腓骨神經麻痺症に對する實地施鍼

實地

一、腓骨神經麻痺症に對する實地施鍼

二、心臟絞窄痛症に對する實地施鍼

灸術の實地

一、膀胱痙攣（壓縮筋）に對し地實取穴

二、急性筋肉痙攣質斯（三角筋）の實地取穴

甲種按摩術の分

一、皮膚の構造

二、橫隔膜の位置及作用

三、振顫法及び其作用を説明せよ

四、筋肉の按摩法

五、消毒法の種類

六、手指の消毒法

乙種按摩術の分

一、胸内の臓器の名稱

二、呼吸作用とは如何

三、按摩術の種類如何

四、醫師治療中の患者に對して如何にする

や

五、傳染病とは如何

六、消毒とは如何

### 栃木縣鍼灸術試驗問題

大正元年十月二十一日舉行

鍼灸術試驗問題（暗旨共通）

一、橫隔膜の起止停止に付て記せ（鍼術）

二、迷走神經の經過及作用（鍼術）

### 鍼灸術の分

一、腹腔内の諸臓器の名稱

二、心臟の作用

三、胃痙攣に對する刺鍼法

四、鍼治の効用

五、消毒は如何なる必要あるや

六、消毒薬の主なるもの二三法を擧げよ

以上鍼術にて灸術は一二五六は鍼術と同じ

く

三、灸術の禁忌の場合如何

四、脚氣病に對する灸治點

マツサージの分

一、二、五、六は鍼灸に同じ

胃の消化作用（灸術）

三、頸部に刺鍼の際注意すべき理由（鍼術）

灸の種類並其方法（灸術）

四、商曲及青靈の所在を記せ（鍼術）

合谷及氣衝の所在（灸術）

五、消毒とは如何なることか（鍼術）

消毒薬の種類（灸術）

六、施術部の消毒法（鍼術）

灸に消毒の必要如何（灸術）

七、實地鍼術（鍼術）灸術（灸術）

### 宮城縣鍼灸按摩術試驗問題

大正元年十月舉行

- 三、マツサージ禁忌の場合如何
- 四、マツサージの手枝種類及全身マツサージに對する順序

東京府鍼灸術試験問題

大正二年四月十日舉行

第一日

- 一、腹筋の名稱及び其起始停止
- 二、小循環及大循環とは如何且つ各循環中に於ける血液は如何なる變化を爲すや
- 三、消毒薬の種類
- 四、手術に際し術者及被術者は如何なる

注意を要するや

- 五、肺經の穴名及び部位
- 六、齒痛に對する刺鍼法並に灸點法
- 七、胃經に對する刺鍼法並に灸點法

第二日 (四月十一日)

- 一、下腿筋の名稱
- 二、唾液の分泌及び其生理的作用
- 三、主なる消毒薬品の種類並に其消毒方法
- 四、偏頭痛に對する刺鍼法並に灸點法
- 五、常習便秘に對する刺鍼法並に灸點法
- 六、胃經の穴名及び部位
- 七、鍼灸術の實地

東京府鍼灸按摩術試験

大正二年六月舉行問題

六月三十日 鍼灸術(學說)

- 一、上膊筋の名稱及其起始停止
- 二、或人一日の營養量幾何なりや
- 三、消毒薬の種類及其効用
- 四、石炭酸の溶解法

同上(實地)

- 一、三陰交及び箕門の經名所在之に遇ぐる神經の名稱を問ふ
- 二、三叉神經痛に對する刺鍼點並に刺鍼法を問ふ

七月二日 同上(學說)

- 一、正中神經々過
- 二、胃の消化作用
- 三、一般消毒方法の種類
- 四、刺鍼に於ける消毒の順序

同上(實地)

- 一、豊隆及漏谷の位置經名及び之に於ける神經を問ふ
  - 二、撓骨神經麻痺に對する刺鍼點並に刺鍼法を問ふ
- 七月二日 甲種按摩術(學說)
- 一、骨盤の形狀及び其構成諸骨の名稱
  - 二、呼吸の目的及び其區別

三、主なる消毒薬の名稱及其使用すべき濃度

四、消毒方法の順序

同上(實地)

一、叩打法及び揉捏法の種類を問ふ

二、背部按摩の術式を問ふ

同月日 乙種按摩術(學說)

一、胸廓を構成する骨の名稱

二、男女に於ける呼吸式の差異

三、消毒薬の種類

四、消毒方法

同上(實地)

一、腹部按摩の適應症及禁忌症を問ふ

二、頭重に對する按摩の方法及注意事故を問ふ

### 東京鍼灸術試験問題

大正二年舉行問題

十一月三日 第一回

一、唾液腺の種類及び所在

二、皮膚の生理的位用

三、理學的消毒法

四、手指皮膚器械類の消毒する理由

五、缺盆の部位及び此内にある神經並に内臟

六、大迎の所在及び經名

七、誘導刺鍼の手法

八、胃脘擊に對する刺鍼の用穴

九、實地

十一月四日 第二回

一、骨盤を構成する骨の名稱

二、脈搏の起る理由

三、第一回と同一

四、同上

五、拔鍼後皮膚に粟粒大若くは麥粒大の隆起を生ずる理由如何

六、坐骨神經痛の刺鍼點並に刺鍼中に於ける手法

七、肩井の部位及び血管神經との關係

八、臍より鳩尾に至る間にある經穴の數並に分寸を述よ

九、實地

十一月五日 第三回

一、上膊筋の名稱

二、膈の生理的機能

三、第二回に同一

四、同上

五、肋間神經痛に於ける刺鍼點並に刺鍼中に於ける手術式

六、前髮際と後髮際とを定むる法及び其間の寸法

七、刺鍼中に於ける響とは如何

八、温溜の部位經名

九、實地

十一月六日 第四回

一、坐骨神經の徑路

二、呼吸の目的

三、第三回と同じ

四、同上

五、絲竹空及び曲鬢の部位經名

六、胃痛に於ける禁忌症を擧げよ

七、章門の穴の數及び部位經名

八、皮下刺鍼の目的を述べよ

九、實地

### 大阪府

大正二年六月舉行問題

一、腹壁は如何なるものより構成さるゝか  
外表より内面に至るまで其順序により記  
載すべし

二、反射運動とは如何

三、幼兒急癩に對する解剖的刺鍼及び穴名  
並に其目的

四、鍼術は如何なる症候に適するや

五、肋間神經痛に對する灸點其穴名解剖的  
部位

六、下肢にある徑穴五個の名稱部位及主治

なる作用によるか

四、乳汁分泌不全に對する按摩法の處置

五、按摩術には何故消毒の必要ありや

六、石炭酸の溶解法及其稀釋度

### 大阪府鍼灸術試験問題

大正二年九月舉行

一、下頸叢(又膊神經叢)より出する主要な  
る神經の名稱を擧げ

二、温調節とは何ぞ

三、消毒藥の種類を擧げ

四、鍼器消毒法(灸一科に限り皮膚消毒方  
法)

七、「リゾール」の性状及使用法

右三、四、は鍼五、六、は灸其他は共通實  
地試験人體に就て

一、食管の痙攣に對し(原因は官能的の  
ものとし)

二、横隔膜の痙攣に對し(以上鍼術)

一、曲池、二里、肩髃の實地探點並に主治

二、腰部に於ける穴名並に探穴及主治(以  
上灸術)

### 甲乙按摩術試験問題

一、脊隨の位置構造

二、食物消化の順序

三、按摩法によりて疲勞を恢復するは如何



五、刺鍼刺戟の緩急強弱は何に由て定むるや

六、小兒の夜泣(又夜驚、夜啼)に對する刺鍼の方法並其部位

七、膝關節リウマチスに對する灸穴の名稱及壯數

八、腦頭蓋正中線に於ける經穴の名稱  
實地試驗並に其問題(人體を提舉)

一、股神經痛に對する實地刺鍼

二、潤背筋痙攣に對する實地刺鍼

三、脚氣に對する實地灸採穴

四、巨關、氣海、天樞、臈中の實地採穴

一、關節の構造を記せ

二、肝臟の位置形狀並其生理的作用

三、運動法の種類及其効用如何

四、胃痙攣に對するマッサージ施術法を問ふ

五、消毒の必要

六、手指消毒方法

實地  
一、腰筋リウマチスに對する按摩法の所置

二、尺骨神經麻痺に對する按摩法の所置

宮崎縣鍼灸按摩試驗問題

大正二年五月舉行

鍼術

第一問 腎臟の位置形狀及構造を示せ

第二問 腦の作用

第三問 撓骨神經麻痺及後頭神經痛に對する刺鍼法

第四問 卒倒の際鍼治を施すべき穴所を示せ

第五問 消毒藥の名稱

第六問 消毒の順序及方法

灸術  
第一問及び二問は鍼術と同じ  
第三問 灸の適應症を示せ  
第四問 手の大陽の穴所數を示せ  
第五六問は同じ

鍼灸術

第一問二問は同じ

第三問 撓骨神經麻痺及後頭神經痛に對する刺鍼法

第四問 手の大陽の穴所數を示せ

第五六問は同じ

愛知縣

大正二年四月舉行問題

名古屋 鍼術

一、腎臟の構造位置形狀

二、延髓の機能

三、鍼刺中若し絶息せば其處置如何

- 四、鍼治に適する重なる疾病の名稱
- 五、消毒法の意義
- 六、消毒薬の種類及使用法
- 七、咳嗽に對する刺鍼(實地)

灸術

- 一、上搏運動を起す筋肉
- 二、運動中樞の所在
- 三、合谷並に三陰交の所在及之に連る神經は如何

- 四、左顔面麻痺に對する灸點を示せ
- 五、鍼術第六問に同じ

按摩術

- 一、下肢骨の名稱

- 一、胸廓を構成する諸骨の名稱及其聯接

- 二、皮膚の効用
- 三、灸痕の生ずる理由を説明せよ
- 四、古來より有名なる脚氣八處の灸穴の部位

- 五、鍼術の第六に同じ

按摩術の分

- 一、肝臟の位置形狀
- 二、上肢に分布する神經
- 三、振顫法の手技及作用
- 四、胃部及小腸部に施す揉捏法手技
- 五、鍼術の第六問に同じ

- 二、胃腸の機能
- 三、頭部按摩法
- 四、大腸の揉捏法
- 五、鍼術第六に同じ

豊橋 鍼術

- 一、胸廓を構成する筋肉の名稱
- 二、體温の起る生理的作用
- 三、三里及五里は何れにありや治療効用は如何

- 四、齒痛の刺鍼點
- 五、消毒法の意義

- 六、消毒薬の種類及使用法外に實地

灸術

埼玉縣

大正二年三月二十五日舉行

- 胃の位置形狀及これに分布する血管神經を問ふ
- 上膊の筋肉及それに分布する血管神經の名稱を問ふ

- 胃痙攣の鍼治法を記せ
- 顔面神經痛の灸治法を記せ
- 腹部の經穴及禁穴を記せ
- 手の消毒法を記せ
- 灸點後の防腐處置を記せ

群馬縣

大正二年三月舉行

腦神經の名稱

血液循環の概況

消毒薬品の種類を挙げよ

灸瘡化膿の處置を問ふ

手の大陰肺經を述べ並に禁穴を述べよ

坐骨神經痛の處置

長野縣

大正三年三月舉行

坐骨神經の起始及其の分布は如何

消化器の名稱及消化液の各作用を問ふ

三、任脈及督脈中の穴名中知れるものを列舉せよ

四、頭痛に對する鍼灸治

五、消毒薬の種類及其使用法

奈良縣鍼灸按摩術試驗問題

大正二年五月舉行

鍼灸術の分

一、胸廓を構成する骨の名稱並に胸腔内臓の位置及名稱(鍼灸甲乙共通)

二、皮膚の平理的作用(同共通)

三、上膊に於ける筋と血管神經との關係

一、折鍼は如何なる場合に起るや及折鍼時

の所置を如何にするが(鍼術の分)

二、八竅及び足の三里の解剖的位置並に足の三里に通する神經の名稱(鍼術の分)

一、施灸部に化膿する理由を問ふ(灸術の分)

二、脚氣病に對する灸治點を問ふ(同)

一、消毒方法の種類を記せ(鍼灸甲乙共通)

二、消毒薬品の名稱を挙げよ(同)

鍼術の實地問題(人體を提供して)

一、結膜及眼瞼粘膜炎の充血に對しての刺鍼

二、膀胱痙攣に對しての刺鍼

灸術實地(同)

一、直腹筋痙攣に對する灸點

二、膊神經叢の神經痛に對する灸點

甲種按摩術

一、二解剖、生理學は鍼灸に同じ

一、二消毒學も鍼灸と同じ

一、輕擦法の人體に及ぼす作用を問ふ

二、頭部の按摩法

乙種按摩術

一、胸廓を構成する骨の稱

二、健康人の脈搏體温及呼吸の數及男女呼吸式の區別

一、腹部按摩法の人體に及ぼす其作用

二、按摩の施術時部を部分的に説明せよ

一、何をか消毒といふか

二、消毒薬品の稀釋度を問ふ

### 奈良縣鍼灸按摩術試験問題

大正二年十月舉行

- 一、顔面神經癱瘓の鍼治法如何
- 二、谷谷及三陰交の解剖的位置並に之に通ずる神經の名稱 以上鍼術
- 一、腸疝痛に對する灸治法並に經穴如何
- 二、婦人尿道淋疾の灸治法如何(以上灸術)
- 一、胃の位置形狀及各部の稱を問ふ
- 二、血管の種類及血液の効用を記せ
- 三、坐骨神經の經路を問ふ
- 一、消毒の必要なる理由を問ふ

一、消毒薬品の稀釋度を問ふ(以上共通)

一、急性腸加答兒に對する(鍼術實地)

二、撓骨神經麻痺に對する(同)

一、四花灸治取穴法但し一法採點(灸術實地)

### 大分縣鍼灸術試験問題

大正二年一月舉行

- 左の如し
- 一、膀胱の位置形狀及び之れに來る血管神經の名稱
- 二、迷走神經の起始並に分布の箇所
- 三、腹部の位置並に臟器との關係

四、腎臟の作用並に腎臟を切際したる結果に就て

五、延髓の作用附たり嚔下の起る理を問ふ

六、膽汁の効用

七、微菌とは如何なるものぞ及び消毒の理を問ふ

消毒薬の名稱及び其稀釋の度

### 大分縣

大正二年十月舉行問題

- 一、頸部に來る血管神經の名稱並に甲狀腺の位置上肢各關節の名稱及構造の大概

二、下肢に分肢する血管神經の名稱經過

三、生殖器の生理的作用

四、脊椎の生理的作用に就て

五、坐骨神經痛の療法(刺鍼點灸の穴)

六、鍼灸術の消毒に就て

七、消毒薬の種類及稀釋度以下略す

### 熊本縣鍼灸按試験

大正二年五月舉行問題

- 一、膈の部位形狀及び作用
- 二、坐骨神經の分布
- 三、刺鍼法、方式及び押手の要點並に施術を避くべき重なる疾病

- 四、灸點法、灸點方式及び各部の位置と體質強弱の別其他年齢に依り施す程度
- 五、經穴及禁穴、瘕門靈臺、上膠、京門、外陵、聽會の六穴を指定し其部位を示せ
- 六、消毒藥の種類
- 七、鍼術灸術に消毒の必要なる理由
- 八、鍼術 顔面神經麻痺、尿閉症を指定し施術の位置及び程度を問ふ
- 九、灸術 ヒステリ、脚氣を指定し灸點の位置

按摩術問題

- 一、輕擦、強擦、揉、捻、叩打、振顫、壓迫、關節運動の諸方式及部位に依り施術を異にする所の區別 並施術を避くべき

重た疾病を問ふ

- 二、人體を提供し施術を行はしむ

福岡縣小倉市鍼灸試驗

大正二年四月舉行問題

- 四月二十六日施行せられたるもの左の如し
- 第一問 迷走神經の分布に就て記せ
- 第二問 胃の消化作用を問ふ
- 第三問 便秘に對する刺鍼點及目的腰痛に對する灸點部位
- 第四問 腹部兩側にある十二穴の名稱及位置を問ふ
- 第五問 二十倍の石炭酸の調製法

小倉鍼術灸術試驗問題

大正二年五月舉行問題

- 一、迷走神經の分布に就て記せ
- 二、胃の消化作用を問ふ
- 三、便秘に對する刺鍼點及び目的(鍼術)腰痛に對する灸點部位
- 四、腹の兩側にある十二穴の名稱及位置を問ふ
- 五、二十倍の石炭酸水の調製法

久留米鍼術灸術試驗問題

- 一、淋巴管とは何ぞ

- 二、上肢に分布する主要なる神經名稱及其經過を記せ
- 三、胸鎖乳嘴筋痙攣に對する刺鍼點及目的(鍼術)胸筋痙攣斯質に施すべき灸治點
- 四、中府雲門天府狹白の位置及び經名を記せ
- 五、鍼灸術者及其局所と器械の消毒法

福岡鍼術灸術試驗問題

- 一、骨盤を構成する骨の名稱
- 二、神經中樞とは何ぞ其作用を記せ
- 三、後頭神經痛に對する刺鍼點及目的(鍼術)座骨神經痛に對する灸點部位(灸術)

- 四、神庭曲差本神の位置及經名を記せ
- 五、化學的消毒法とは何ぞ

小倉按摩術試験問題

甲種

- 一、動脈と靜脈との區別
- 二、脊髄神經の分布如何
- 三、便秘の原因及之れに對する按摩法
- 四、足關節の捻挫後に於ける按摩法如何
- 五、二十倍の石炭酸水の調製法

乙種削略

久留米按摩試験問題

甲種

- 一、腦の形狀及區別
- 二、三叉神經の分布を問ふ
- 三、斜頸の原因及之に對する按摩法如何
- 四、胃擴張の症候及之に對する按摩法
- 五、消毒の目的

乙種削略

福岡按摩試験問題

甲種

- 一、唾液腺の所在及び排泄管を問ふ
- 二、前膊に於ける重なる神經及動脈の名稱を記せ

- 三、偏頭痛に對する按摩法
- 四、肋間神經痛の症候及之に對する按摩法如何
- 五、化學的消毒法とは何ぞ

福岡縣

大正二年十月舉行問題

福岡市鍼術灸術試験問題

- 一、上膊筋の名稱及起始停止
- 二、呼吸の目的及區別
- 三、瘰癧門百會の位置及經名を記せ
- 四、三叉神經痛に對する刺鍼點及灸點部位
- 五、施術時の消毒順序

其他實地問題略す（按摩問題も寄投せられた）

小倉鍼術灸術試験問題

- 一、顔面神經の經過
  - 二、脊髄に於ける中樞
  - 三、體中折鍼時の所置
  - 四、齒痛に對する刺鍼法並に灸點法
  - 五、二十倍石炭酸水の調製法
- 其他實地問題は略す
- 久留米鍼術灸術試験問題
- 一、脊髄神經及交感神經の所在を問ふ
  - 二、腎臟の位置形狀及其作用

- 三、鍼治の適應症及不適應症を列記せ
- 四、灸治の作用を記せ(灸術)
- 五、消毒藥の種類並に其使用方法

三重縣鍼灸按摩術試驗問題

大正二年十一月舉行問題

鍼術學說の分

- 一、上膊に於ける主なる神經の名稱及徑路
- 二、肝臟の位置形狀及其作用
- 三、太陽叢の部位並に鍼治上の關係
- 四、手の厥陰心包經の穴名並に禁鍼穴名を問ふ

- 五、消毒の意義
- 六、衣服の消毒方法

同實地の部

- 一、腦貧血に對する刺鍼點
- 二、三陰交の部位及主治効用

灸術學說の部

- 一、二、五、六問は鍼術と同じ
- 四、脚氣に對する灸治法
- 同實地の部
- 一、知利氣の經穴名及取穴法及主治
- 二、肩引と云ふは何れにして經穴名及取穴及主治

按摩術學說の部

- 一、頭蓋骨の數及名稱
- 二、皮膚病の効用
- 三、輕擦法の手技及生理的作用
- 四、按摩法の順序
- 五、消毒とは何ぞ
- 六、手指の消毒方法

實地の部

- 一、背部の按摩法
- 二、胸部の按摩法

三重縣

大正二年五月舉行問題

- 一、上肢血管の名稱及其徑路

- 二、消化液の名稱及其作用
- 三、胸骨劍尖より臍中に至る穴名 禁穴部位
- 四、偏頭痛に對する刺鍼點
- 五、消毒の理由
- 六、刺鍼部の消毒方法
- 七、實地

長野縣鍼灸術試驗

大正二年度九月十八九日舉行問題

- 一、頭蓋骨
- 二、鎖骨下動脈
- 三、口腔の機能

- 四、呼吸及其目的
- 五、便秘の鍼術及石門
- 六、消毒の方法

按摩術試験問題

- 一、肋骨
  - 二、横隔膜
  - 三、身體の温度
  - 四、交感神経の作用
  - 五、痲痺質斯に對する按摩法
  - 六、消毒法
- 長野地に於て去廿一二日の施行問題
- 一、頭蓋
  - 二、脾臟

長野縣

大正二年十一月舉行問題

鍼灸術

- 一、胃の機能
  - 二、僧帽筋の所在
  - 三、捻鍼法とは如何
  - 四、上肢の三里對解剖及經名
  - 五、灸の禁忌病
  - 六、消毒法
  - 七、氣管支加答兒、胃瘻、坐骨神經痛の所置(實地)
- 按摩の分

- 三、含水炭素及其作用
- 四、小腦及其機能
- 五、三陰交
- 六、消毒法

按摩術(同)

- 一、大腿骨
- 二、淺層胸筋
- 三、靜脈の作用
- 四、乳汁の作用
- 五、肩胛關節の強直に對する按摩法
- 六、消毒法

膝部の構造及心臟に就て

按摩の手法

- 消毒法、消毒藥の選擇

島根縣鍼灸試驗

大正二年四月舉行試驗問題

鍼術

- 一、坐骨神經の經過
- 二、動脈血と靜脈血との區別
- 三、胸腹部に於ける禁穴名
- 四、胃瘻瘻の症候及刺鍼の部位
- 五、消毒藥の名稱
- 六、消毒の順序及方法



實地、顔面神經麻痺及腰痛に對する刺鍼法

灸術

- 一、二、鍼術に同じ
  - 三、灸痕の化膿したる時の處置
  - 四、肋間神經痛の症候
  - 五、六、鍼術に同じ
- 實地、慢性子客加答兒及上膊神經痛に對する灸點法

岐阜縣

大正二年十月舉行問題

(十月十日)鍼灸術試驗問題(岐阜市の部)

- 一、肺臟の位置及其機能(共通)

二、漆膈窩を通過する血管神經の名稱(共通)

- 三、誘導刺鍼とは如何なるものなるや二三の例を挙げよ(鍼術)
- 四、腦充血の刺鍼點と目的並に手の三里は何神經に該當するや(鍼術)
- 五、胸部の禁灸穴名並に湧泉の穴は外貌上何れにあるや
- 六、灸を禁ずる場合及び三陰交は何神經に當るか(灸術)
- 七、滅菌ガーゼとは如何なるものなるや(共通)
- 八、鍼灸施行時の消毒方法及順序(共通)

鍼灸術試驗問題多治見町の分

- 一、肝臟の位置
- 二、脊髓の機能
- 三、肋間神經痛に對する刺鍼點及刺法
- 四、鍼の生理作用及薦骨孔に該當する穴名
- 五、五臟の穴とは何れに在るか其部位を記せ

六、坐骨神經痛に對する灸點及足の三里の主治効用

- 七、藥局に由らざる針の消毒法如何
  - 八、消毒法の種類を挙げよ
- 十月廿日舉行

鍼治

灸治

- 一、上肢の主なる筋肉血管神經の名稱
  - 二、心臟機能如何
  - 三、偏頭痛の刺鍼點
  - 四、下肢の禁灸穴名
  - 五、手の消毒法
  - 六、石炭酸の浴解法
- 灸治
- 一、二、五、六、鍼治に同じ
  - 三、脚氣の灸點法
  - 四、胸部の禁穴名按摩
  - 一、胸廓を構成する骨の名
  - 二、腎臟の機能如何

- 三、捫摸法とは如何
- 四、膝關節の按摩法
- 五、六、鍼灸三同じ

高知縣鍼灸按摩試驗

大正二年五月舉行問題

鍼術科學說

- 一、筋肉の構造及其作用附背部淺層筋の名稱を記せ
- 二、心臟の位置形狀構造
- 三、肋間神經痛と胸筋痠麻質斯の鑑別及各刺鍼法
- 四、手の少陰心經穴名

- 四、任脈經に於ける鳩尾以上の(上身)穴名並に手の大陰肺經に於ける禁穴を記せ
- 五、肺結核症に接したるとききの消毒法
- 六、消毒法の必要なる理由

福井縣鍼灸術試驗

大正二年二月舉行問題

- 一、頭部に於ける鍼の可否(鍼術)
- 二、胃痛に對する刺鍼法(鍼術)
- 三、胃痛に對する灸治法(灸術)
- 四、上肢に於ける禁穴の個所を問ふ(灸術)
- 五、僧帽筋の位置(鍼灸術)
- 六、ポーバルト氏靱帶下を通過する血管神經

- 五、鍼術に於ける消毒法の順序
- 六、消毒藥の種類並に石炭酸水の製法實地人體提供

一、患者四十年の男子大酒家なりしが五六日前より便秘し卒然頭痛眩暈耳鳴等を發し顔面灼熱潮紅結膜充血あり本病病名及刺鍼法

二、胃痙攣の原因症狀を問ひ且刺鍼法

- 一、腕骨を構成する諸骨の名稱
- 二、動脈と靜脈の差異
- 三、半身不隨を發する疾病の名稱及其灸法

經の名稱(鍼灸術)

- 七、消毒は何故に必要なや其理由を述べよ(鍼術)
- 八、鍼術を施すべき局處の消毒方法順序如何(鍼術)
- 九、施灸部に化膿を起さざるは如何なる場合なるや(灸術)
- 十、手指の消毒方法及其順序(灸術)

静岡縣試驗

大正二年五月舉行問題

- 一、顔面を構成する骨の名稱

二、上腹部臓器の名稱及位置並消化液とは如何

三、疝痛に對する刺鍼法並に其穴名

四、上肢の禁刺穴名及其位置

五、消毒の目的

六、鍼及局部の消毒法

七、上肢諸關節の構造

八、上肢に循る血管神經の經過

九、呼吸の目的並に法式

十、内呼吸と外呼吸に就て

十一、脊髓の作用

十二、延髓及び小腦の作用に付て

十三、禁穴の名稱を擧げ其部位を按示せよ

十四、消毒薬の種類及び稀釋度  
十五、臨床消毒法の順序  
十六、實地

愛知縣鍼灸按摩試驗

大正三年四月舉行問題

名古屋市の部

鍼術試驗學說

一、胸筋の名稱並に起始停止

二、體温の調節を説明せよ

三、氣戸なる鍼穴は何れにあるか解剖的部位を示せ

四、前胸部に於ける禁刺穴二三を示せ

五、消毒薬品の種類及應用法  
六、消毒を施す理由

實地

一、皮下刺鍼

二、頸部直鍼

灸術學說試驗

一、喉頭の位置形狀並に構造

二、呼吸作用を説明せよ

三、前額部に於ける灸穴及禁穴の二三を示せ

せ

四、陽谷に點灸は如何なる疾病を治療する

目的なるや

五、六、は鍼と同じ

實地

一、胃病の灸治法

二、遺尿の治療法

按摩術並にマツサージ術學說試驗

一、上肢骨の區別及名稱

二、唾分泌作用を説明せよ

三、強擦法は如何なる場合に於て施すか

四、按摩術の運動法を幾つに分つか且其の名稱に付説明せよ

五、六、前と同じ

實地

一、肋間神經痛に對する實地施術

二、腹部に於けるマツサージ手技

豊橋市の部

鍼術學說試驗

一、大腿部に於ける筋肉の名稱及起始停止

二、血液循環とは如何

三、氣衝とは何れの部位にある鍼穴なるか

四、隱白とは何れの部位の鍼穴なるか此に

鍼術の目的を示せ

五、消毒薬品の種類及應用法

六、消毒を施す目的

實地

灸術學說試驗

一、肩胛骨とは何ぞや

二、胃の消化作用を説明せよ

三、灸點の作用を分ちて幾種とするか其の區別に付説明せよ

四、承泣とは何れにあるか且つ其の部に分布する神経の名稱を擧げよ

五、六、は鍼と同じ

按摩術學說試驗

一、肋骨に付て

二、腸の蠕動とは何ぞや

三、按摩を施す時間の長短を説明せよ

四、按摩を禁ずる疾病の種類を擧げよ

五、六、前と同じ

名古屋市鍼灸按摩試驗

大正三年十月舉行問題

鍼術の分

一、上肢に分布する神経の名稱

二、尿の分泌作用は如何

三、神経痛に對する施鍼の目的を問ふ

四、神封なる穴は何所にありや且つ刺鍼の目的及び可否は如何

五、鍼術に應用する消毒薬品

六、消毒を行ふの理由如何(其他實地)

灸術の分

一、皮膚の構造は如何

二、知覺に就て説明せよ

三、亞門なる穴は何れにありや且つ點灸の目的及び其可否は如何

四、齒痛を治する穴名及び其部位

五、灸術に應用する消毒薬品

六、鍼術に同じ(其他實地)

按摩術の分(甲種)

一、骨盤を形成せる骨の名稱及び其部位

二、反射作用とは如何

三、肋膜炎に施す按摩術式

四、筋捻挫症に施す術式

五、按摩術に應用する消毒薬品

六、鍼術に同じ(其他實地)

豊橋市鍼灸按摩試験

大正三年十月舉行問題

鍼術の分

- 一、皮下に於ける血管及び神経の名稱
- 二、脾臓に就て記せ
- 三、鍼治に應用する鍼の種類及長さ並に太さ
- 四、承筋なる穴は何れにありや且つ刺鍼の目的及び可否
- 五、消毒薬の種類を記せ
- 六、消毒を施す理由

灸術の分

- 一、脊柱に就て述べよ
- 二、消化液の作用
- 三、灸の適應症を記せ
- 四、風府なる穴は何れにありや且つ灸點の可否は如何
- 五、六は鍼術に同じ

按摩術の分(甲種)

- 一、頭蓋骨を構成する骨名を擧げよ
- 二、呼吸の作用
- 三、炎症消散の目的に應用する按摩術式
- 四、關節炎後に起りたる強直症に應用する按摩の術式
- 五、六、鍼術に同じ

東京

大正三年二月舉行問題

二月十七日

鍼灸術試験問題

- 一、心臟の位置形状及辨膜に就て知る處を述べよ
- 二、三叉神経の機能
- 三、大小鍼の利害得失
- 四、胸部に於る禁穴の部位及經名
- 五、常習便秘にをける灸點の要穴
- 六、石炭酸の溶解法如何
- 七、消毒の順序方法

乙種按摩術試験問題

- 一、胸筋の名稱
- 二、呼吸中樞の所在
- 三、後頭部の捻轉ぞくに寢違したるときこの按摩方法に就て述べよ
- 四、按摩の禁忌症を擧げよ

二月十八日

甲種按摩術試験問題

- 一、肘關節
- 二、消化とは何んぞ
- 三、過度の歩行をなしたる時最も疲勞を來す筋の名稱を擧げよ
- 四、關節運動の種類に就て述べよ

- 五、腹部按摩の技術に就て述べよ
- 六、日光は消毒に適するや
- 七、手指の消毒方法

京都鍼灸按試験

大正三年四月舉行問題

鍼術

- 一、心臓の位置形状及其作用を問ふ
- 二、神経の反射作用とは如何
- 三、鍼の生理的作用を述べよ
- 四、坐骨神経の経路にある穴名を挙げよ
- 五、尤も簡易にして適當と認むべき鍼の消毒方法を問ふ

六、消毒方法の種類を問ふ

灸術

- 一、二、鍼術に同じ
  - 三、灸術治療禁忌の諸症を挙げよ
  - 四、胃腸病に對する腹部の主治穴名を挙げよ
  - 五、手術衣の消毒は如何にすべきや
  - 六、術者の消毒すべき部分及其方法
- 受験者甲十一名乙六名
- 按摩術
- 一、男子腹腔内臓器の名稱及位置
  - 二、血液循環を記せ
  - 三、揉捻法の手技及作用

- 四、按摩術を禁忌すべき場合如何
  - 五、手指の消毒は如何にしてなすや
  - 六、二三消毒薬の名稱
- 其他凡て實地
- 受験者甲十四名乙二十四名

東京

大正三年六月舉行問題

六月二十四日

- 一、肩胛筋に分仰する神経の名稱
- 二、呼吸の化學的變化
- 三、蒸氣消毒とは如何なることを云ふか
- 四、消毒の方法

五、取穴法

- 六、魄戸及膏盲の位置及爰にある筋及神経の名稱
  - 七、膀胱麻痺の灸治點
- 六月二十六日
- 一、胃の部位及形状名稱
  - 二、脊髓の機能
  - 三、消毒の内安全なるもの
  - 四、背部禁穴の部位及經名
  - 五、偏頭痛要穴
  - 六、便秘要穴
  - 七、肩胛痛の灸治點

東京鍼灸按試験

大正三年四月舉行問題

四月十五日

按摩術

- 一、腹腔内に存する臓器の名稱
- 二、血液循環の模様
- 三、消毒の意義
- 四、消毒薬の名稱
- 五、叩打法の生理的作用に付て
- 六、急性筋肉ローマチスの揉み方
- 七、肩胛及背部按摩法の順序

四月十七日

按摩術

- 一、上膊に於ける筋肉の名稱
- 二、呼吸の目的及其區別
- 三、消毒の意義
- 四、消毒薬品の主なるをの二三を述べよ
- 五、腹部按摩の腹管に及ぼす作用に付て
- 六、指髌輕擦法の目的及び應用すべき部位を挙げよ
- 七、頸部按摩の手技及び其應用

四月二十日

灸術

- 一、正中神經の經路
- 二、胃の消化作用
- 七、興奮刺鍼の應用

大阪府鍼灸術試験

大正三年三月舉行問題

- 三、消毒に付て知る所を述べよ
- 四、消毒薬の名稱
- 五、月經痛に對する灸療の用穴
- 六、灸療の禁忌症を挙げよ
- 七、乳根の經名及び部位

四月二十二日

鍼灸術

- 一、撓骨動脈の經路
- 二、呼吸中樞に就て知る所を述べよ
- 三、消毒方法の種類
- 四、消毒薬の名稱二三を挙げよ
- 五、坐骨神經痛に施すべき鍼灸法
- 六、天府俠白の部位

剖的部位を記せ

八、手指の消毒方法を記せ

實地

- 一、肋膜炎に對する灸點
- 二、施灸するに腹背何れを選ぶや其理由
- 一、結膜炎に對する施灸
- 二、急性腸加答兒に對する施灸

按摩術試驗問題(甲及乙種共)

- 一、男子内臓の位置及名稱
- 二、呼吸器の名稱及呼吸の必要
- 三、顔面神経麻痺に於ける按摩術の手法
- 四、筋の削瘦萎縮せるものは如何なる按摩

法を以て治すべきか

- 五、按摩法に依て炎症滲出物の吸収せらるるは如何なる理由に因るか
- 六、消毒薬の種類及稀釋度

大阪府鍼灸按摩術試験

大正三年六月舉行問題

鍼灸術試驗問題學說

- 一、背椎神經を記せ(鍼灸共)
  - 二、血液有形成分の種類及其主なる作用同
  - 三、少商、期門、客主人、承扶、京門(同)
- 右解剖的部位並に禁鍼灸の區別

四、施鍼に由て膝關節炎の如き腫脹を減少する理由如何

- 五、何に由て鍼の細大長短を撰定するや
- 六、筆瘡に對する灸點
- 七、灸の普通の壯數を記し及び壯數の多少は何々の條項に據るか

八、鍼管の消毒方法(鍼)皮膚の消毒方法(灸)

- 一、急性胃加答兒の假裝患者に實地施鍼
- 二、大小胸筋麻痺の同(同)
- 一、第七頸椎及各腰椎の棘状突起の採點(灸)
- 二、大腿部に於ける各穴の實地採點(灸)

同按摩術甲種の問題

一、肋間神經の經路及其分佈を記せ

二、腸蠕動とは何ぞ

三、按摩法を行ふに時間の限度及び手力の度ありや其理由

四、肩胛關節按摩法の術式及其應用

五、靜脈 怒張に對する按摩法

六、消毒施行の目的

一、筋萎縮に於ける按摩法の實地

二、脚氣に於ける按摩法の實地

東京

大正三年十二月舉行問題

十二月十一日



鍼灸術

一、膊神經叢

二、延髓の機能

三、昇汞水の調製法及器械消毒に對する適否

四、天柱の經名及部位

五、關元の經名部位及此の内にある内臟の名稱

六、刺鍼に對する注意事項

七、灸點の必要條件とは如何

八、實地

十二月十二日

按摩術

按摩術

一、下肢骨の名稱

二、體温の起る理

三、化學的消毒藥の名稱

四、浮腫に於ける按摩の目的及施すべき手技

五、按摩術の禁忌症を擧げよ

六、妊婦の腹部按摩法の技術に付て述べよ

七、實地

十二月十五日

按摩術

一、脊柱を構成する骨の名稱

二、血液循環の概況

三、消毒の種類

を問ふ

十二月十七日

鍼灸術

一、下腿筋の名稱

二、呼吸の目的及區別

三、鍼術に於ける消毒方法

四、消毒藥品の主なるものを擧げよ

五、曲垣肩外の位置經名並に其解剖的關係を問ふ

六、背部の禁穴

七、便秘に對する灸點の要穴

十二月廿二日

鍼灸術

四、消毒藥品の主なるもの二三を擧げよ

五、腹部按摩の生理的作用に付き知る所を述べよ

述べよ

六、按摩術者の心得に付き知る所を述べよ

十二月十七日

按摩術

一、骨盤を構成する骨の名稱

二、唾液の生理的作用

三、消毒の種類

四、消毒薬の主なるもの二三を擧げよ

五、頭痛に對する按摩術の手技及び注意事項を問ふ

六、按摩術強弱なる技術を施すべき場合

- 一、下腿に分佈する神経の名稱
  - 二、呼吸運動の區別
  - 三、鍼術に於ける消毒方法
  - 四、化學的消毒法とは何を云ふや
  - 五、興奮刺鍼を施すべき部位並に術式を舉げよ
  - 六、天樞並に氣海の經名並に部位を舉げよ
  - 七、灸治法の禁忌症に付て述べよ
  - 八、灸術の種類に付て知る所を述べよ
- 十二月二十三日

鍼灸術

- 一、上膊に循る動脈の名稱
- 二、呼吸時に於ける鼻腔の機能

- 三、理學的消毒法とは何を云ふか
- 四、消毒藥品の主なるものを舉げよ
- 五、大迎頰車の部位經名を舉げよ
- 六、腹痛に對する刺鍼法に就て述べよ
- 七、腰痛に對する灸點の要穴を舉げよ
- 八、灸治の大小利害に就て述べよ

大阪府鍼灸按摩試験

大正三年九月舉行問題

- 一、顔面神経の起始及分布を記せ
- 二、尿の成生及排泄の経路
- 三、迷走神経の變常に對し施鍼に依て調整し得る理由如何並に其一例を示せ

- 四、胃擴張に對する施鍼點如何
- 五、神経衰弱に對する灸治法
- 六、脚氣八處の灸穴並解剖的部位
- 七、腹衰、魚際、膈中、懸鐘、水溝、の解剖的部位並に禁鍼灸の區別
- 八、消毒の目的及消毒藥の名稱

按摩術試験問題

- 一、男子に於ける腹部臟器の名稱及其位

- 一、腹筋麻痺に對する實地施鍼
- 二、尿道加答兒に對する實地施鍼
- 三、消化不良に對する實地灸穴の採點
- 四、上腹部に於ける主要なる灸穴の採點

大阪府鍼灸按摩試験問題

大正三年十二月十六日施行

鍼灸術學說問題

- 一、上肢を構成せる骨の名稱及排列の順序
- 二、皮膚の構造及び其の生理的作用(以上共通)
- 三、内臟神經機<sup>の</sup>變常に對して施鍼の効果如何其一<sup>を</sup>を示せ
- 四、施鍼に由て神經纖維及血管を刺傷し之れが復舊は如何其一<sup>を</sup>を示せ(以上術術)
- 五、痔とは何ぞや及其灸治法
- 六、灸の施術中に眩暈を發せしききの處置及豫防法(以上灸術)
- 七、俗に丹田、打ち抜き、橫章門と云ふは

何穴なるや其解剖的部位

- 八、施術時の消毒方法(以上共通)
- 鍼術の實地問題及手術
  - 一、黃疽の痛理的症候に對し實地施術
  - 二、菱形筋麻痺に對し實地施術
- 灸術の實地問題及取穴
  - 一、右膈骨部の炎症に灸の適否
  - 二、半身不隨症に灸治法
- 甲種按摩術問題
  - 一、腹部筋肉の名稱を問ふ
  - 二、呼吸作用とは如何
  - 三、從來一般に應用せられたる按腹法の種類及其術式を問ふ

- 四、月經困難に對する按摩法の處置
- 五、神經性胃痙攣に對する按摩法の處置
- 六、手指の消毒法を記せ

東京

大正三年十一月舉行問題

十一月四日

- 一、脈搏の起る理由
- 二、骨盤を構成する骨の名稱
- 三、拔鍼後皮膚に粟粒大若くは麥粒大の隆起を生ずる理由
- 四、坐骨神經痛の刺鍼點並に手技
- 五、肩井の部位及血管神經との關係

- 六、臍より鳩尾に至る間にある經穴の數並に入寸を述べよ

東京

大正三年十月舉行問題

- 十一月六日施行の分左の如し
- 一、呼吸の目的
- 二、座骨神經の經路
- 三、糸竹空及曲髻の部位經名
- 四、胃痛に於ける鍼術の禁忌症を擧げよ
- 五、章門の穴及部位經名
- 六、皮下刺鍼の目的を述べよ

按摩術

- 一、腹腔内に存在する臓器の名稱
  - 二、血液循環の模様
  - 三、消毒法の種類
  - 四、手指消毒方法
  - 五、按摩の禁忌症(乙)
  - 六、按摩の効用(乙)
  - 七、輕擦法と強擦法の區別(甲)
  - 八、按摩の適應症(甲)
- 十月五日

按摩術

- 一、肩胛筋に屬する筋の名稱
- 二、呼吸の目的及其區別

山形

大正三年十一月舉行問題

- 一、按摩の効用を記せ
- 二、關節運動の術式
- 三、心臟の位置作用
- 四、下肢の浮腫に對する按摩法並効用
- 五、チフスに對する術者の心得
- 六、石炭酸及昇汞水の使用分量
- 七、輕擦法及強擦法
- 八、腦血に對する按摩法

弘前

消毒の効力

- 三、消毒の効力
- 四、消毒薬中の主なるもの、二三を挙げよ
- 五、胸部按摩の注意並に術式(甲)
- 六、妊婦に對する腹部按摩の注意並に術式

青森縣

大正三年十一月舉行問題

- 一、血管及淋巴管に就て知れる處を述べよ
- 二、胃の機能を述べよ
- 三、消毒薬の名稱を問ふ
- 四、消毒薬の必要なる所以を問ふ
- 五、腸痛に對する鍼灸治法を問ふ
- 六、肩井及五里の經名及部位を問ふ

鍼術

大正三年十一月舉行問題

- 一、腹腔内にある各臓器の名稱及位置
- 二、動脈血と靜脈血との區別
- 三、胸腹部に於ける禁穴の部位及其名稱を問ふ
- 四、肋間神経痛に對する刺鍼點
- 五、消毒薬の名稱
- 六、消毒方法
- 七、實地
- 八、灸術
- 一、二、鍼術に同じ
- 三、灸治の一般効用